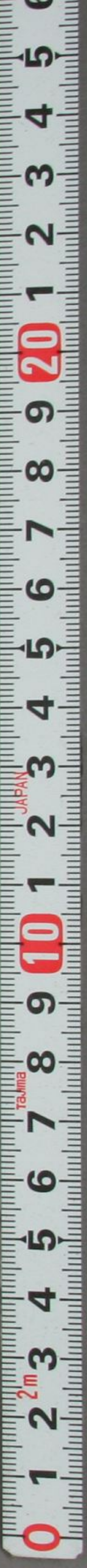


制度通

74
6458
1



6458
1

制度通叙

儒者誦法聖人之道以倡當世

世之人謂儒者之道上世之事

異方之習而非我邦今日之宜

也。而或者則謂中夏文明之地

松壽館
圖書印

制度通

37- 8183

禮樂之所存而本邦僻處夷
 服簡陋無文不足與言也此西
 者胥失之矣溯觀玄古之初太
 素無文太朴不斲本邦與函
 夏一也考諸西土神聖繼作而

人文日闡建諸天地徵諸庶民
 著為典謨訓誥為禮樂兵刑
 以及乎周立百王之大法郁
 乎其文哉秦任其私智以滅先
 王之禮自是以降以革損益因

時更制。雖非復三代之舊。而亦不能全蔑其法。而反乎所為焉。蓋自然之道也。稽之吾邦。天七地五之世。邈矣。自腆支質。我負厥經典。因高之使。隋真人之聘。

唐而文籍之道興焉。律令格式。專遵唐制。而其宏綱大要。百世有賴。然則謂吾國全讓中夏可乎。謂吾國不必用中夏可乎。大抵西土之禮。固有古今之變。而

吾邦之制。亦有舊新之殊。經生
晚達。專狃聞三代之制。而謂秦
漢以還。亦如上世。不知封建革
而郡縣興。公侯伯子男替。而監
司守令立。貢助徹廢。而租庸調

分。農兵罷。而府兵建。采地失。而
俸祿頒。墨劓刑。宮室。而笞杖徒
流行。鄉舉里選。革。而墨書帖括
盛。刀布壞。而為泉鈔珠玉。亡。而
為黃白。彖榴省。而為真艸。簡牘

便而為紙帛椅而不席騎而不
乘今之中夏非古之中夏也而
今閭閻委巷之人不唯不識中
夏之古今而詢之我邦之古亦
惘焉不省謂前世禮俗亦與今

日同吁亦笨矣吾邦治化之隆
庶績咸熙百事攸叙曆象之法
祖乎尚書紀元之禘肇乎漢史
都邑之制出于周禮大極之殿
始乎魏氏道國郡鄉之設準道

州縣鄉官省諸司之掌。做三省
 部寺。凡厥禮樂兵刑之著。律度
 量衡之制。皆莫不有所由本焉。
 夫聖人之大經大法。或襲或革。
 傳至吾國。以逮今日。豈謂之異

方之宜。上世之事。可不務講究。
 其所由焉。哉。亂不敏。不揣譎陋。
 通考三代以來。至宋明典章文
 物。參之以。本朝之制。使讀書
 攷古者。知其所以由矣。名曰制度

通ト為カ之ラ序云

享保九年甲辰臘月日

伊藤長胤序



制度通目錄

- 一 卷一ノ事
- 一 元年改元ノ事
- 一 正朔三統ノ事
- 一 日星纏度ノ事
- 一 曆法ノ事
- 卷二
- 一 州縣郡國ノ事
- 一 郡縣大小等差ノ事

- 一 內朝外朝並二朝會ノ事
- 一 宮殿名稱ノ事
- 一 都邑坊城並二皇城宮城門驛ノ事

卷三

- 一 三公三師三少ノ事
- 一 唐三省 本朝太政官ノ事
- 一 六官九寺六部八省ノ事
- 一 後宮官ノ事
- 一 東宮官屬ノ事

卷四

- 一 官秩位階正從ノ事
- 一 兼行守試ノ事
- 一 功臣號並二賜ノ事
- 一 官職四等四分ノ事
- 一 詔勅制誥並二位記等ノ事
- 一 冊授勅授等ノ事

卷五

- 一 服章ノ事

一 印章ノ事

一 俸祿ノ事

一 符牌勘合ノ事

一 僧尼度牒ノ事

卷六

一 進士及第状元三場ノ事

一 考課ノ事

卷七

一 任子蔭補ノ事

一 廟制並ニ間架ノ事

一 九族五宗五服並ニ本朝五等親ノ事

一 廟號陵號並ニ臣下謚號ノ事

卷八

一 古今戸口多寡ノ事

一 墾田並ニ稅糧總數ノ事

一 田賦並ニ井田租庸調兩稅ノ事

卷九

一 田法步畝頃並ニ本朝所段ノ事

一 行程里數ノ事

一 成丁ノ事

一 復除並ニ蠲符ノ事

一 旌表ノ事

一 常平倉社倉並ニ本朝屯倉公廩田ノ事

卷十

一 錢貨ノ事

一 尺度ノ事

一 斗斛ノ事

一 權衡ノ事

一 端匹屯約ノ事

一 姓氏ノ事

一 名字ノ事

一 卷十一

一 釋奠ノ事

一 樂ノ事

一 經籍ノ事

一 學校ノ事

卷十二

一 律令格式ノ事

一 兵制並ニ 本朝軍團ノ事

卷十三

一 五刑ノ事

一 十惡並ニ 本朝八虐ノ事

一 八議並ニ 本朝六議ノ事

一 議請減贖官當除免ノ事

一 大赦常赦曲赦ノ事

一 私度越度冒度ノ事

一 保辜限ノ事

一 才技長上ノ事

一 士功並ニ長功中切短功ノ事

制度通目錄畢

制度通

目錄

五

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

制度通卷一

伊藤長胤 輯

▲元年改元ノ事

○古ハ天子諸侯即位ノ年是ヲ元年ト云唐
虞ニ載ト云夏ニハ歳ト云殷ニ祀ト云周ヨリコノカ
タ八年ト云元トハ天子元士ノ元ノゴトクハジメト云コ
トナリ先君崩薨ノ後明年ヲ元年ト云踰年^テ改^ラ
元ト云是ナリ

○秦已前年號ノコトナシ天子諸侯トモニ元年ヨリ
二年三年ト數ヘテ年ニ隨フテ事ヲ紀ス書經
洪範ニ惟十有二祀王訪于箕子トイヘリ史記
秦ノ本紀ニ維皇帝二十六年トイヘリシカレトモ秦
惠文王十四年ニ更メテ元年トス年號ノ名ハタテ
サレトモ年號ノ漸是ヨリ始レリソノチ漢ノ文帝ノ十
七年ニ云新垣平候日再中以爲吉祥是ニヨリ
テアラタメテ後元年トス天子ノ在位ノ中ニ元年
ヲ改ムルコト是ニハジメリ景帝ノ時ニ中元年後元

年ト二度改メラル武帝即位ノトシ初テ年號ヲ建
ラレテ建元々年トスコレ年號ノハジメリナリ
胡氏ノ春秋傳ニオモヘラク古ハ元年ト稱シテ號
ヲ建レコトナシ歷世無窮而美名有盡豈記久明
遠可行之法也ト聖人ノ意ニアラストイヘリ朱子
語類コレヲ非トセラルコトナリ後世ヨリ興リテモ世
ノ為人ノ爲ニ宜シキコトハ取ルニシキニアラズ
本朝之制即位祥瑞災變及革命則改
元

○本朝 神武天皇元年辛酉ヲ紀セシヨリ己未三十七世 孝德天皇元年乙巳ノ年ヲ大化ト號セラル 本朝年號ノ始メナリ六年庚戌長州ヨリ白雉ヲ獻スルニヨリテ白雉ト改メラシ五年ニ畢ルツノ次 齊明天智ノ二帝ハ年號ヲ建ラズツノ次 天武天皇ノ時ニ白鳳朱鳥ノ號アリ 持統天皇ノトキ又年號ナシ 文武天皇五年辛丑對馬金ヲ貢スルニ因テ三月甲午元ヲ建テ大寶ト云ユレヨリ以後歷代相續シテ即位並ニ祥瑞災

變ニハ必改メラルナリ大抵中國ノ外古今相傳ニ年號ヲ建ル國ハ史傳ノ間カツテ見アタラズ南詔國安南國少々年號アレトモ數百年相續シテ年ヲ紀スコトナシ

○本朝ニハ辛酉甲子ノ年必改元アリ是ヲ革命令革命ト云コノ年ニ改元アルコトハ中國ニハコノ例ナシ本易ノ革命卦ヨリ起ル詩緯推度災ニ云戊午革運辛酉革命甲子革改革卦離下火戊午之象兌上金辛酉之象金火相克革道始成鼎卦坎

革故甲子次辛酉一元之始王者改代之際
 會所謂鼎新之義又易緯云辛酉為革命甲
 子為革令ト是ナリ又一部一元ト云コトアリテ六
 甲六十年ヲ一元トス壬戌ニハシテ辛酉ニオハル是
 ヲ二十一年ハセタルヲ一部ト云部ハ辛酉ニハシテリ
 テ庚申ニオハルコノ一部一元トイフト後漢書ニヌ
 ル部元トイフト同シカラズ

○神武天皇ノ元年辛酉ヨリ 齊明天皇六年
 庚申ニテ千三百二十年コレヲ一部トス同天

二年壬戌ヨリ 推古天皇九年辛酉ニテ千二
 百六十年是ヲサ一元トスコノ年數同カラザルワ
 ケハ部首辛酉ノ年ヨリ一元六十年ヲ除ニコレ
 ヲ算フルナリコレニヨリテ辛酉ノ年改元アリソノ詳
 ナルコトハ一條禪閣三革說ニ三善清行易說等ヲ
 引キ漢ノ鄭玄唐ノ開元中王肇カ説ナトニヨリテ
 ノ説ヲ詳ニセラル

○宋元以來改元コト漢唐ノ制ニヨリテカハルコトナシ
 ○明ノ太祖ニイタリテ改メテ一帝一號ニキハメラル

中コロ二年、號ヲ改ムルコトナシ、謝在杭五雜組ニ云
 我國家列聖相承、惟於即位之踰年、改元、終
 身不易、亦可謂卓越^ス千古矣、ト今清朝モソ、通
 リニテ第一世順治、第二世康熙、今第三世雍
 正ト云ト書、籍イマタ傳ラザレハ詳ナルコトハシリカ
 タシ

▲正朔三統ノ事

○唐虞ノ時、正朔ノコト詳ナラズ、夏六寅ノ月ヲ正トシ
 殷六丑ノ月ヲ正トシ、周ノ世六子ノ月ヲ正トス、是
 ラ三正ト云、又三統ト云、是ハ北斗七星、北極ノ一分
 七、十二度ノ中ヲメグリテ、地中ニ入ルコトナシ、一晝
 夜ノ間ニ斗柄十二方ヲ一ハリサスナリ、天ノ運行、毎
 日一度ツ、ナルニヨリテ、一日ニウツ、ウツリテ、一年
 三百六十五日、餘ニテハモトノ處ニカヘルニカルニヨリ
 テ、十一月二十、二、方ヘウツル、毎月初昏ニオサスト

コロノ方ヲ以テツノ月ノエト、スタトハ今ノ正月十六
 初昏ニ寅ノ方ハサス十二月十六日ノ方ハサシ十一月
 十六日ノ方ハサス餘ノ九月三十日同シ是ヲ以テ十二
 時ヲ定メ十一月ヲ分ツ是子丑寅三正ノヨリテオ
 コルケナリ是ヲ三統ト云コトハ後漢馬融ノ論語
 ノ註ニ出ツ所損益謂文質三統ト云リ正義ニ書傳
 略説ヲ引テ天有三統物有三變トイヘリ子ヲ天
 統トシ丑ヲ地統トシ寅ヲ人統トス故ニ是ヲ三統ト
 云統者本也謂天地人之本トツノケ正載ニ詳リ

○三統ノ説註疏ハ集註ト同シカラス註疏ノ説ハ子
 ノ月天ノ陽氣ハシメテ動クヲ以テ天統トス丑ノ
 月ハ萬物地中ニアリテ萌芽ヲ含ミ養フヲ以
 テ地統トス寅ノ月ハ人物地ニアラハレテ人切ノ修
 理ヲツツヲ以テ人統トストイヘリ集註ニ邵康節
 ノ一云ヲ十ニ會ニワリテ天開於子地闢於丑
 人生於寅ト云説ヲ取用コラルシカレトモ古ヘソノ
 説ナキコトナレハヨリ信スヘカラスコレ等ノ説シイテ
 ソノ説ヲモトムヘカラス

三代建正圖

夏正	建寅 今正月	人統	又曰 人正
殷正	建丑 今十二月	地統	又曰 地正
周正	建子 今十一月	天統	又曰 天正

○六經ノ内周ノ書所ニヨリテ夏正ヲ以テイフコトアリ古来ヨリ諸説サシクアリテ一決セズ宋ノ魏了翁ノ正朔考明ノ張以寧ノ春王正月考十ト論辨アタナリ周正ヲ主トスル人ハ詩書春秋トモ何レ

モ周正ニテ月ヲシルストイヘリ夏正ヲ主トスル人ハ何レモ夏正ニテシルストイヘリ詳ニ經傳ノ間ヲ考ヘ合スルニ當時ニ兩方トモニ通シテ用ヒタルトシヘタリ何ツナレハ春秋左傳ノ内ニ春王正月日南至トイフコトアリ今ノ十一月ナリソノ外春無冰夏無麥禾トイフカコトキ周正ヨリイハ災異ナリ今ノ正ニテイハ廿三災トモイハレスレカレハ春秋ノ一經ハ子ノ月ヲ以テ正月トスルコトニガヒナシ又詩經ノ内ニ四月維夏六月徂暑トイフカコトキハ夏ノ正ニテイハ相應シ周ノ正ニテイハ

ハカナハズ是両方トモツノ證據アキラカナリカヤウニニ
正アルケハイカニトイハ古ヘヨリコノカメ夏正事ニ
便ナルニヨリテ世々ニ改正アレトモ民間ニハ夏正ヤリ通
用ストニヘタリ春秋ハ魯ノ史記ナルユヘニ公儀コトトハ
時王ノ制ヲ用ヒタルナリ詩ハ民間ノ諷謡ナハイヒ付
テ勝手ニ宜シキヲ用ユトニヘタリ元文類ノ内張敷言
改月教議アリ考フヘシタトハ今時文字ニ里教ヲ
シルスニ當時ノ三十六冊一里ニテ記ス人モアリ又唐
里教 本朝古ヘノ六冊一里ニテ記ス人モアリ今

人ハヨニ多テ一カフコトナレ後世ニナリテハ疑フコトアルヘシ
ニ正ノワケモコノヤウ成ルコトニヘタリ兎角孔子顔
子ニ告ケ行夏之時トノタラシカレハ夏殷周ト各
正月カハリテソノ内ニテハ夏ノ正天時ノ正ヲウルコト
ルヘシ

三代以前ノ正朔ノコト鄭玄オモヘラク帝王易
代莫不改正堯正建母舜正建子ト王肅オ
モヘラク惟殷周改正易民視聽自夏已上
皆以建寅為正ト書經舜典ノ既ニ詳ナリ然

トモニ説トモ何ニヨルコトヲシラズ其内王肅ノ説
近カルヘシ

○周亡テ秦ニイタリ始皇ノ時ニ正朔ヲ改メテ今ノ
冬十月亥ノ月ヲ以テ正トス漢ノ世モハジメハツノ法ヲ
承テ十月ヲ正トス史記漢書ニモ漢ノ始メ高帝父
景ニテハ毎年ノ首ニ冬十月トシテ武帝ノ太初元
年ニイタリテ紀寛ノ議ニシタガヒ改メテ夏正ヲ用
日本紀ニ云夏五月正歴以正月為歲首トヨリ
ノ千後世ニイタルテモハラ夏正ニ從フテ遂ニ改ムコト

ナレ夫子行夏之時トクタニフ萬世マコトニ違フコトナ
レ唐宋元明ニ至ルニテミナ同キコトナリ

本朝之制用夏正

○本朝國史ニ記スル年月ミナ寅ノ月ヲ正トス上世ノ
事後世トコトニ詳ニシカタシ因テ思フニ上世ヨリ記
録シ来ルコト年久シク後世中國ヨリ曆法ワタリタ
ル上長曆ヲ以テ推テ夏正ヲ以テ前代ノコトヲ記
サルト見ヘタリ

▲日星躔度ノ事

○一度ト云コト六天ヲ三百六十五四分一ニワリタル内
 ノ一ツヲ一度ト云モト天ト日月ト毎日ノクイチカヒ
 ヲ一度ト云テ縦横トモニ是ヲノリニシテ北極地ヲ
 其ノ高下並ニ二十八宿領分ノ廣狹ヲモツモルコト
 ナリサテ天ト云モノハ蒼々ノ體ニテ運行ノ度ニルスヘ
 キニヨリナシ星ヲ以テ體トス然トモ曆書モツノ事ヲ
 明ニ説破セサルニヨリテ初學ノ士ニトフコト多シ先
 今日ノ初昏ニ南方ニ一箇ノ中星ヲ見付テ明

日ノ初昏ニコレヲ見レハ今日ノ所ヨリハ少クスザル其
 ホドノ間ヲ一度トタテ何尺何丈ト云フツモリニア
 ラス毎日毎日カクノ如クニ日ニ一度ツ、スサリテ是ヲ
 三百六十番ノ上又一「日ヲ四分ニワリタル内ノ一分
 ホトニナルトキニ今日見付タル所ニカヘル冬至ヨリ冬
 至ニテ夏至ヨリ夏至ニテ何レモカクノ如シ是ニヨリテ
 天ヲツモリテ三百六十五度四分一ト云朱子曰
 天ヲ旋於地外ニ一晝夜一周匝自地之正午
 而觀之則其周匝之處第一日子時至第二

日子時微有爭差蓋周匝而過之觀天者定
 其間狹名曰一度ト是ナリ

○天象ノ上ニ運行ノ別ハアリ天一通りナリ二十宿等
 アラユ満天ノ経星皆一同ニ天ニ隨テ左旋ス日一通
 リナリ月一通リナリ五星各自ニ五通りナリ是ヲ合
 セテハツ書経舜典ニ在瓊璣玉衡以齊七政ト云
 リ日月五星ヲ七政ト云天ヲノリニレテ是ヲ除キテ
 是ヲ七政ト云是曆法ノオユエニナリ
 ○天ノ運行ハ冬至ヨリ冬至ニテ三百六十五日四

分日ノ一アリ故ニ三百六十五日餘ヲ全歲ト云尚
 書二期三百六旬有六日ト云是ナリ滿天ノ星辰
 五星ヲノヅク外何レモカクノ如クニ運行スサテ日
 體ハ毎日周天ヲメグリテモトノ處ヘカヘル少ノ過不
 及ナシ天行ノ度ニアハセテハ毎日一度ヅ、オクルナリ
 是ヲ日行一度ト云月體ハ毎日周天ヲ運行シテ
 三度十九分ノセツ、オクルナリ是ヲ月行十三
 度十九分之七ト云今ノ人大畧ニシテ月ノ出ハ
 毎夜ニ一時ヲ十分ニワリタル四分之、遲速アリト

云ホトノコトナリシカレハ天モ日月モ遲速アレトモ何レモ
 東ヨリ西ニシテ毎日一周天シテ日ハ天ヨリ一度
 オツク月ハ十三度餘リオツキナリシカレニ天ハ左旋
 シ日月ハ右旋シテ日ハ一度行キ月ハ十三度ユク
 云ハ曆法ノ積リヤスキニヨリテカク云コトナリ左旋ト
 云ハ東ヨリ西へ行コト右旋ト云ハ西ヨリ東へ行コト天
 モ日月モトモニ實ハ左旋ナリ蟻磨ノタトヘ並ニ兩
 舟並ヒ行クニ遲キ舟モ同キヤウニ行ケトモ早キ舟
 ヨリ見ハアトへ行カコトシト云タトヘナト何レモソノ事

古朱子曰曆家以日之不及天而退一度者為右行一度蓋以截法取其易筭耳月亦左行ト是ナリ或云天ハ實ニ左行シ日月ハ實ニ右行シテ筭法ニテ言タルニアラズト予謂以毎日而言則天與日月俱是左旋以一年而言則天左旋而日月右旋ト故ニ古來云々ス

○堯ノ時ニ冬至ノ時日二十八宿虛星ノ七度ニ在リ故ニ堯典ニ日短星昴以正仲冬ト云リ夕ノ中星昴十六日虛ニアタルナリ

○圖書編云堯之冬至初昏昴中而日在虛七度虛者北方之宿則日行北陸躔于玄枵之子也今之冬至初昏室中而日在箕三度箕者東方之宿則日行東陸躔于析木之寅也是去堯末四千年而差五十度矣

○其後千九百年餘ニテ周ノ末秦ノ時分ニナリテハ斗ノ二十二度ニ在リ月令云仲冬之月日在斗ト是ナリ其後世々ニ差アリ之ヲ下ニ舉グ
堯ノ時 日在虛七度 書經堯典ニ云

周ノ末 日在斗二十二度 月令三摠

テ己ヲ推ス漢書律歷志云冬至之

時日在牽牛初度爾雅既具廿

漢元和三年 日在斗二十一度 博物

典彙二見六

晉大元九年 日在斗十七度 同前

劉宋元嘉十年 日在斗十四度 同前

唐開元十二年 日在斗九度半 同前

宋沈存中筆談時六 日在斗六度

宋慶曆甲申 日在斗五度 文獻通考

二見六

宋高宗改統元曆時 日在斗二度 博

物典彙二見六

元ノ初六 日在斗初度 理學類編二見六

元改授時曆時 日在箕十一度 博

物典彙二見六

元至元ノ比 日在箕九度 理學類編二見六

元延祐ノ比 日在箕八度 同前

明嘉靖間冬至初昏室中 日在其二度

博物典彙ニ見ル

堯ノ甲辰ヨリ明ノ嘉靖ノ比ニテハ三千九百年
アメリ日ノ在リトコロ、千カヒ五十餘度ニ及
ヘリ典彙類編等ニヨリテコレヲ録ス

○漢書律歷志ヲ考ルニ武帝ノ元封七年ニ十一月
冬至日月在建星ト建星トハ二十八宿ノ斗星
ナリ注ニ舊法ニ斗ニ十一度ニ在太初曆由分
法ニ斗ノ二十三度ニアリト云ツ、後晉ノ大元九

年ニ斗ノ十七度ニ在リ劉宗ノ元嘉嘉十年ニハ
斗ノ十四度ニ在リ唐ノ開元十二年ニ斗ノ九
度半ニ在リ右イツレモ博物典彙ニノス宋ノ仁宗
ノ慶曆甲申ノ年ニ斗ノ五度ニ在リ通考ニ
レヲノス高宗ノ世統元曆ヲ作ルトキ斗ノ二度ニ
在リ元ノ初斗ノ初度ニ在リ授時曆ヲ作ル
トキ斗ノ十一度ニ在リ至元ノ比斗ノ九度ニ
在リ延祐ノ比斗ノ八度ニ在リ明ノ嘉靖ノ比ニ
ハ冬至初昏ニ室星中ニ日斗ノ二度ニ在リ右

何レモ類編典彙ニ具サナリ

○書經蔡氏傳ニ云天度常平運而舒日行常内轉而縮天漸差而西歲漸差而東此歲差之由理學類編云天度有餘日道不足故六十餘年之後冬至所直天度率差一度是謂歲差ト是八日ト天ト打合セテ閏月ヲ立テ平均ニスレモ七十餘年ヲ経テ八天ノ歩ハ早クシテ西ヘスキ日ノ在ルハ一度オソキナリソレユヘ堯ノ時ノ冬至六日虛星ノ度ノ内ニテリテ往來ニ後世ニナリテ段々カリアリト上ニ業通ナリ

○文獻通考ニ中興天文志ヲ引テ曰江默謂歲差者旧躔於一歲之間行周天度未及餘分而日已至焉故每歲常有不及之分然歲差古無有其法漢洛下閎雖知太初曆ハ百年當差一度後人未究其悉也晉虞喜始覺之トコノ說書經蔡氏ノ傳ト同カラス蔡氏ノ說ノ通トハ天ハ早クシテ日ハ遲レソレユヘ數十年ノ後ニハ天ハ日ヨリ西ヘ一度ホトスクルナリ中興志ノ說ノ通トハ天行ノ盡餘分ニオヨハサル内ニ日ノアレハヤクシテソノ

所ニイタルシカレハ數十年ノ後ニ日天ヨリ西ハ一度ホト
 スグルナリヨノニ、詔ウラハラノ違アリシカルニ、堯ノ時ニ日
 虛星ノ綫度ニアリテ宋元ノ時ニ箕斗ノ分ニアリ中
 興志ノ説長セルニ似タリ何トナレハ二十ハ宿ハ人位ヨ
 リ見レ南ニアタリテ角ヲカシラニシテ西ヨリ東ニシテ
 レリ半ハ地下ニ入ルツノ運行毎日東ヨリ西ニシテ堯
 ノ時日虛星ニアリテ宋ノ時斗ノ綫度ニアルトキハ虛
 ハ斗ヨリ東ノ星ナリシカレハ星ハオクテ東シ日ハ行キ
 過テ西スト見ヘタリ蔡氏所謂天漸差而西歲漸

差而東トイフコトハアヤミリト見ヘタリ

○北極地ヲ出ルコト三十六度南極地ニ入ルコト又三
 十六度今ノ渾天儀天球圖等ニウツストコロカツ
 コトシ是ハ中國ノ嵩高山ヲ天地ノ中トシテ積リタ
 ルモノナリコノ度数所ニヨリテ同シカラズ南ヘヨホト卑
 ク北ヘヨホト高シ明ノ成祖韃靼ヲ攻テ深ク北胡
 ノ地ヘリタルハ北極四十度ニ及ブトイヘリ又元ノ
 陳孚字剛中トイフモノ廣南ヘ使シテ極星ノ高
 サワツカ十五度ニオヨブトイヘリ博物典彙云南海

極出地一十五度北海極出地六十五度又
唐開元十二年僧一行南北極之高并並夏至
夏至之日影ヲ測ル一時ニ之ヲ較ス林邑國北極
高十七度安南都護府二十一度六分此ハ何レモ
南ノハツレナリ蔚州横野軍北極高四十度此ハ北
ハツレナリソノ詳志ハ通典秘書監ノ下ニセリ

○天ノメグリハ北高ク南卑ク東ヨリ西ニ轉ス朱子曰
天轉也非東而西也非循環磨轉却是側轉
トシカルニヨリテ南北ノメクラザル所ヲ南極北極ト

云天ノ軸ナリ南極ハ常ニ地下ニカクレテ見ヘズ北極ハ
地上ニアラハレ目ヅルシナケレハカナハサルニヨリテソノ傍
ノ星ヲ目當ニシテ是ヲ北極星ト云又紐星トモ云
北辰トモ云子ノホシノコトナリ少ク少クゴキハアレトモ極
ニチカキニヨリテメグルコトスクナレ所謂北辰居其所
而衆星共之ト是ナリ辰ハモト星ノコトニアラズ天壤
也ト訓ジテ星ノヤドリノコトナリ然トモ又通シテ星ヲ
スグニ北辰トモ云ナリ北極星ヲスグニ北極ト云ト同シ
キコトナリ

○北斗ノコトハ前正朔考ノ下ニ舉ル通リナリ重子テシ
 ルスニ及ハズソノ内斗柄正月朔昏ニ寅ノ方ヲサスニヨリ
 テ是ヲ寅ノ月ト云ニ月ハ卯ノ方ヲサシ三月ハ辰ノ方
 ヲサシ十二月ニ月ヲサシ此ニ準ス三代己東傳ニトヨク
 ノ如シレカルニ今破軍星ヲクルニ時四ツサリテ月ノ數
 ト云ツタフニカレハ正月ニ斗柄ノ方ヲサシテ寅ニオ
 ザズ或人ヨリ説ヲ執シテ正月ヲ寅ノ正トイフコトハ
 ヤマリトイヘリサダメテ天象ノ上ニテ方角ノ取ヤウ
 タカヒテノコトナルヘレニ正ノ説古東ヨリ推歩スコト

ハ誤ルトアルニシト答ハ侍リキコノ比宋沈括存中
 カ夢溪筆談ヲニルニ云古者正月斗柄建寅今
 則正月建丑矣又歲與歲合今ハ差一辰
 典曰日短星昴今乃日短星東壁此皆隨歲
 差移也ト是ニテサキノ疑判然タリ是モ歲差ノ
 ワケニテ唐虞ヨリコノカタニ千年餘ヲ過ルニヨリ
 テ斗柄モ一辰ヲ違フナリ軍家ノ説ハスグニ今ノ
 世ノ天象ニ就テ覺ヘタルモノニテ是モアヤリニアラ
 ズニ説各ソノ時ニヨリテカク異ナリ一際ニスヘカラス

○二十、ハ、宿ノメグリ衆星トカハルコトナシ天體ノ内ニテ
 人、位ノ南方ニアタリテ二十、ハ、座ノ星ヲ目アテニ
 ナダメタルモノナリコレヲ四方ニ分ケテ東方蒼龍ノ七
 宿南方朱雀ノ七、宿トイフコトハ人、位ノ四方ニアラ
 ズ二十、ハ、宿ヲ四ツニワリテ七、宿ツ、ヲ四方ニ配シテコ
 レヲ東方南方ト云ナリ星ノアリ所時ニヨリテ東ニ在
 リ西ニモ在リワレニカニハズ角亢氐房心尾箕ノ七、星
 イツミテモ是ヲ東方ノ七、宿ト云人、位ノ東ニアラズ南
 西北モホコレニ準ズ

○蒼龍朱雀白虎玄武ヲ四神相應ト云テ四方ニ
 カケノゴトキ鬼神ノ象アリトオモフハアヤマリナ
 二、十八、宿ノ星象ヨリオコル王者ハ天ニ體シテ行
 ニヨリテ旗常ニヨリ紋ヲ繪カキテ四方ノ星象ニカ
 ドル角亢氐房心尾箕ノ七、宿ツノ並ヒヤウ龍ノ如
 シヨク牛女虚危室壁ノ七、宿ツノ並ヒヤウ蛇ノ龜ヲト
 子如シ奎婁胃昂畢觜參ノ七、宿ツノ並ヒヤウ虎ノ形
 ノ如シ井鬼柳星張翼軫ノ七、宿ツノ並ヒヤウ短
 尾ノ鳥ノコトシ是ヲ四方ノ色ニ配シテ蒼龍朱

崔白虎云武ト云ナリソノ詳ナルコトハ爾雅釋天ノ疏ニアリ云四方皆有七宿各成一形東方成龍形西方成虎形皆南首而北尾南方成鳥形北方成龜形皆西首而東尾

○五星木火土金水ノ五星ナリ又是ヲ五緯ト云緯ノ義ナリ二十八宿並ニ滿天ノ衆星ハイツレモ一等同クメグル是ヲ經星ト云五星ハ他ノ星ニカハズ各自ニ別ニ運行ス故ニ是ヲ緯星ト云經緯トイヘトモ實ニタテヨロニメグルニアラズ同ク東ヨリ西ヘユケトモソノ

メグリヤウ同シカラザルニヨリテ經星緯星ト云フナリソノ内ニ日月五星ニハ小輪ト云コトアリ

圖	星	五
辰星	太白	金星
水星	鎮星	土星
	熒惑	火星
	歲星	木星

▲曆法ノ事

事物紀原ヲ考フルニ通曆物理論等ヲ引テ大昊
 神農黃帝ナドノ時ニジメテ曆ヲ作ラルトイヘリ又
 呂氏春秋ニ古く容成ト云人曆ヲ作ルトイヘリ世
 本ニ是ハ黃帝ノ時ノ人トイヘリ今書經ヲ考フルニ
 堯舜ノ時初テ羲和ニ命シテ天文ヲ考ヘ曆法ヲ
 ハジメラル是固ニ書ニアラハレテタシカナルレリ
 トモフノ推歩ノ法ハナハダ精詳ナルコト中々百年ニ
 百年ニテ考ヘイダシタルコトハミヘズ堯舜ヨリ以前

幾千百年ヲ経テ幾バク人ノ思慮推算ヲ以テ
 カクノコトク考ヘ究メタルモノナルベシタ、堯舜ノ時ニ
 イタリテソノ法ニヨリテイヨククハシク明カニナリタ
 コト、ミヘタリ夫子祖述堯舜憲章文武レタマフカ
 ハコレヲ以テハジメトシテ可ナリ

○漢書律歷志ヲ按スルニ古ハ顓頊ノ時ニ南正重司
 天北正黎司地テ曆数ノ事ヲ掌ルソノ後重黎
 ノ二官トモニスタレテ閏月タシカラズ堯ノ時ニ重
 黎ノ子孫ヲ擧用ヒラレ曆ヲ正サシム是ヲ義和ト云フ

ツノ事書經堯典ニ詳ナリ

○春秋左氏傳ノ内處々ニ曆ノコトアリ或ハ曰司歷過
 也ト然トモソノ詳ナルコトハミヘズソノ後秦ノ世ニ至ルマデ
 曆法ヲ改メラルコト史傳ニ見ハレズ漢ノ時ニ黃帝
 顓頊夏殷周魯ノ六曆存在スルコト漢志ニテラハル
 是ハ後世ヨリ古書ノ年月ニヨリテ推歩シタルモノ
 ルヘシカレドモ古ヘヨリモ世々ニヨリテ改メ正サレハカナハ
 サルコトナレハ世々ノ曆法コトナレハズナリ

○漢ノ武帝ノ太初元年ニ公孫卿司馬遷等曆

法壞廢ノ由ヲ申スニヨリテ御史大夫兒寬ニ詔シテ曆法ヲ議セシムヨリテ夏正ヲ用ヒ年號ヲ改メテ太初元年ト云太初曆ヲ作ル曆ニ名ヲ付ルコトハコレハシニツノ後二十六年ニシテ成帝ノ元鳳六年劉歆ニ統曆ヲ作ル平帝ノ時ニ四分曆ヲ作ル靈帝ノ時ニ乾象曆ヲ作ル漢ノ曆法スベテ四たび改メ之

漢	太初曆	武帝
曆	三統曆	成帝
四	四分曆	平帝

變圖

乾象曆 靈帝

○曆ニ歲差ト云コトアリ是ハ日月星辰ノ運行遲速ノリ各同シカラズコレヲ打合セテ一年ヲ大小十二月ニシテ二十四氣ニワリ三歲ニ一閏五歲ニ再閏ヲオク十九年七閏ニテツノ出入ナク一同ニナル是ヲ一章トイフレカレドモ少々ツノノタガヒハミヌカレズウレユヘ數年ノ後ニハ曆ニクイチガイアリテ日ノ在所オナジカラズ是ヲ歲差ト云東晉ノ唐喜ヨリ是ヲ算シ出

シテ五十年ニテ一度ヲ差フトイヘリ何承天八百年
ニテ一度ヲ差フトイヘリ隋ノ劉焯西家ノ中ヲ取テ
七十五年ニテ一度ヲ差フトイヘリ唐一行三家ノ
説ヲ考ヘテ劉焯カ説ヲ近シトイヘリ大衍曆ヲ以テ
オシテ八十三年ニテ一度ヲ差フトイヘリ又三才圖會
ヲ按スルニ元ノ郭守敬ハ六十六年ニテ一度ヲ差フ
トイヘリ

○三國魏ノ世ヨリ隋ノ時マテ曆法凡十三度改メ
ラル唐ノ一代ハ度改メラル

唐	曆	八	變	圖
戊寅元曆	麟德甲子元曆	開元大衍曆	至德曆	寔應五紀曆
<small>高祖時道土傳仁均造</small>	<small>高宗時李淳風造</small>	<small>玄宗時僧一行造</small>	肅宗	代宗
				建中正元曆
				元和觀象曆
				憲宗
				長慶宣明曆
				穆宗
				景福崇元曆
				昭宗

○唐書曆志ニ云唐終始二百九十餘年而曆八改トソノ後五代五十三年ノ間晉周並ニ蜀南唐ニモ各曆法ヲ改メラルルテハ家アリ事イタツカワシケレハアケズ

唐書志ニ至德曆ヲノセズ故ニハ改ト云治平略
 六肅宗ノ時山人韓顯カ言ヲ用ヒテ曆ヲ更メテ至德曆トストイヘリ

本朝之制

日本紀ヲ按ズ推古天皇十年冬十月百濟國ノ僧觀勒來朝シテ曆本ヲ貢ス

ニ天文地理遁甲方術ノ書ヲ持シ來ル仍テ書生三四人ヲ選テ學習セシム陽胡史祖玉陳曆法ヲ習フ此本朝曆法ノ始リナリ三代實錄ニモ又觀勒始テ貢曆術而未行於世トコレヲ引ケリ

○天武天皇四年正月庚戌始興占星臺ト云々
 ○ソノ後持統天皇四年十一月甲申奉勅始行元嘉曆典儀鳳曆三代實錄ニ云持統天皇四年始用元嘉曆改用儀鳳曆稱德天皇天平窰字七年八月停儀鳳曆用開元

大衍曆 光仁天皇密龜十一年ニ至テ遣唐使録事内藤正羽栗臣翼^{ツム}密應五紀曆經^ヲ貢ス明年天應元年ニ勅アリテ曆ヲ造ラシム人ノ習學スルナク猶大衍曆ヲ用ユコト百年ニ及フトイヘリ

○文德天皇齊衡三年真野麻呂五紀曆ヲ用ニテ奏シ請フニ因リテ朝議アリテ大衍五紀兩法カ子用ヒラル天安元年正月始用五紀曆先是曆博士大春日朝臣真野麻呂上奏 本朝用開元大衍曆年久矣今檢大唐開成四年大由三年

年兩年曆註月大小頗有差謬覆審其由蓋依五紀曆經所造請依件經術造進至是許之真野麻呂曆術獨步餘傳祖業已及五世云 清和天皇貞觀元年ニ渤海國ノ大使馬孝慎新長慶宣明曆ヲ貢ス二年六月曆博士大春日朝臣真野麻呂ノ奏ニヨリテ宣明曆ヲ用ヒラル右共ニ國史ニ詳ナリ

○後朱雀院長曆三年五月廿三日諸卿定申曆博士道平興僧證昭曆論事可用道平曆

之由被宣下之ト云々百練鈔ニ見ハル

○後冷泉院永承五年九月廿八日諸卿定申曆博士道平大法師證照兼博士為長等勅申朔旦事道平ノ曆法朔旦冬至定メタリト三夕リ增命申云今年閏在十一月道平造曆可謂純繆ト時ニ大宋曆持來閏果在十一月道平申云延曆以後一章不誤至于承平六年者曆家之失也先例雖有和漢曆之相違公家更不用異朝說云々仍被定朔旦畢ト又百

練鈔ニ見ハル

本朝曆法五改圖

- 元嘉曆
- 儀鳳曆
- 大衍曆
- 長慶宣明曆
- 貞享曆

○本朝長慶宣明曆ヲ用ヒラルコト八百年餘ナリ

○宋時太祖ヨリ理宗ニテ曆法凡テ十六度改メ玉海ニ詳ナリ

宋曆十六變圖

開禧曆	會元曆	乾道曆	紀元曆	觀天曆	明天曆	儀天曆	應天曆
寧宗	光宗	孝宗	徽宗	哲宗	英宗	真宗	太祖
會天曆	統天曆	淳熙曆	統元曆	占天曆	奉元曆	崇天曆	乾元曆
理宗	寧宗	孝宗	高宗	徽宗	神宗	仁宗	太宗

右黃帝曆ヨリ會天曆ニテ凡テ五十餘家ソノ

改策王應麟カ玉海並ニ事言要玄ニ具サナリ

○元ノ世祖至元十三年ニ宋ヲ平ゲテ許衡王恂

郭守敬ニ詔シテ新曆ヲ作ラシム南北ノ日官ト古

來ノ曆法ヲ參考シ日月星辰ノ運行ヲハカリ中

數ヲ酌取テ曆本トス十七年ニ至リテ成就スツ名

ヲ授時曆ト賜フ書經堯典ノ敬授民時ト云ノ語

ヲトリテ名ツケタルナリ繼テ李謙ニ詔シテ曆議ヲ

作ラシムツノ法前代ニスグレテ最精密ナリ丘瓊山

曰古今曆法至於元郭守敬可謂度越千古矣

元曆圖

授時曆

○郭守敬モトモ曆法ニ精シツカニ改曆ノコト專守敬カ命ヲ受ク守敬奏シテオモヘラク古今ノ曆ノ中ニ唐ノ一行カ大衍曆ヲ稱首トス是ハソノカニ開元ノ時分南宮説トイフモノヲ遣シ天下ヲ巡行シテ景ヲ測

ニヨリテナリトイヘリ又渾天儀玲瓏儀景符等サザノ器ヲ作ルコニオイテ監候官十四人ヲ遣シ東ハ高麗西ハ滇池南ハ朱崖北ハ鐵勒ニイタル所ニテ二十七日所ニテ景ヲ測リ五年ニシテ曆成ルコノ次第廣治平畧ニアラハル

○古代ヨリノ曆法ハ上古ニ曆元トイフコトヲ立テテヨリ積リ出スコトナリ授時曆ノ法ハ夏至冬至遠近ノ日晷ヲ以テソノ中ヲ酌テコレヲ用ユ至元辛巳ノトシノ前冬至ノ日時分秒ヲ以テ氣應トシ冬至距朔ノ日

ヲ以テ閏應トシテ歷代所謂積年ノ法盡ク廢ス
 又日ヲ以テ百分トシテ分ヲ百分トシテ歷代ノ日
 法トイフモノ盡クスル此等ノワケ又廣治平畧ニテ云
 ○明ノ太祖吳ノ元年ニ括蒼劉基ガ名ヲキテ聘
 シテ都ニイタラシメ太史令トスソノ属官ヲ率ヒテ戊
 申大統領曆ヲ作シ洪武十七年ニ欽天監觀星基
 ヲ雞鳴山ニキツク是歲博士ニ元統曆法ヲ改洪武
 甲子ヲ曆元トセント請フ監丞李德芳コレヲ争フコ
 コニ於テ太祖詔シテ洪武甲子ヲ以テ曆元トシテ授

時曆ノ法ニヨリテ推算スルコトハシメノゴトシヨリ先ニ
 又回々曆ノ法ヲ用ヒラル三十年ニ回々監ヲ改シ罷
 ラルワノ後正統中ニ己巳曆ヲ作りテ頒行セラル
 ノ法疎ナルヨリテ廢シテ行ハス嘉靖中ニ光祿少
 卿管監事華湘萬曆ノ初鄭世子載堉上書シテ
 曆ヲ改ノント請フ用ヒラレズ明ノ世ヲ終ルニテ改曆ノ
 コトキコヘズ今ノ清朝ノ曆ハ時憲曆トイフト傳フ追
 キコトナレハツノ詳ナルコトヲシラズ

明

戊申大統領曆

洪武

曆二變圖

己巳曆

正統

制度通卷一畢

制度通卷二

伊藤長胤 輯

▲州縣郡國ノ事

○堯ノ時禹ヲシテ洪水ヲオサメシメ天下ヲワカチテ九州ト
 ス禹ツノ境界貢賦ノコトヲ記シテ禹貢ヲ作ル是ヨリ
 サキ九州ニ分タレテ堯ノ時ツノ法ニ從ヒタニフカ又アラ
 タニ九州ニワカタルカツノワケハシルヘカラス後世ニ及テ天
 下ノ州郡サニクニ變改アレトモ堯ノ時ノ九州ノ名ハカハル

コトナシフレユヘ地理ノ書ニカナラズ是ヲ證據トス唐ノ杜
氏通典並ニ詩經集傳ニ在禹貢某州古某州地トシテ
舜ノ時ニイタリテニシテ十二州トス書經云封十有二山
濬^ス川^ヲト十二州ノ山川ヲ定ムルコトナリ^ワノ後又十二州ヲ
九州ニワリナラサレタルコト何レノ代トイフコトヲシラス殷ノ世
ニ九有九圍ト云コト詩經書經ノ内ニ見ハル先儒オモヘ
ク殷ノ時代ヨリ又九州ニセラレタルト云々

舜ノ十二州ノ名經傳ニ見ハズ爾雅周禮ニ周ノ九
州ノ名ヲ記シタル所何レモ禹貢ト同カラス注疏ニ

ヲ取アハセテ十二州ノ數ヲアセリシカトモ^ワノ實ハシレカダシ

禹貢九州圖

- | | | |
|----|----|----|
| 冀州 | 兖州 | 青州 |
| 徐州 | 揚州 | 荊州 |
| 豫州 | 梁州 | 雍州 |

右ヲ禹ノ九州トスコノ外ニ先儒幽州并州營州ヲイ
レテ舜ノ十二州ト相傳フ

○周ノ時ニ天下ヲ九州ニワリテ天子ノ都千里四方ヲ畿

内トス是天子ノ公領ナリノ外ニ五等ノ諸侯アリ面々私領トス周ノミニカギラズ三代ノ時ハイツレモカクトコトニ是ヲ封建ノ世ト云禹ノ時ニ萬國アリト云殷々ニ兵セテ武王ノ時ニ八百ノ諸侯會盟ニアツカル春秋ノ時ニハ諸侯征伐互ニ相吞滅シテ春秋ノ經傳ニ見ハルモノ百七十國アリソノ後十二諸侯ナリテ戰國ノ時ニ七國ニ食

○周ノ時諸侯強大ニシテ王室衰微ナルニヨリテ秦ノ世ヲリテ是ニヨリ六國平均ノ後ニ諸侯ヲアラタメ立テズ天下ヲ分テ三十六郡トス郡ゴトニ守尉監各一人ヲ置守

ハ民ヲ治メ尉ハ武事ヲ掌リ監ハツノ目付ヲナス郡ノ下ニ縣アリ縣ニ令丞尉アリコト時ニ天下ヲコトクク公領トシテ諸侯ノ國ナレ其後又四郡ヲミシ置テスベテ四十郡アリ是ヲ郡縣ノ世ト云漢已來スコレツ、封國アレトモ古ノコトクニ久シク相續セズコトニ唐宋已來ハ封爵ノ名レトモ皆空名ニテ土地ヲ賜フコトナシフレユヘ古今ヲ大畧ニワカチテ三代ハ封建ノ世ト云後世郡縣ノ世ト云是ニヨリ

秦	内史	三川	河東	南陽
三	南郡	九江	鄆郡	會稽

十	潁川	碭郡	泗水	薛郡
東郡	琅邪	齊郡	上谷	
六	漢陽	右北平	遼西	遼東
代郡	鉅鹿	邯鄲	上黨	
郡	太原	雲中	九原	雁門
上郡	隴西	北地	漢中	
圖	巴郡	蜀郡	黔中	長沙

○漢ハジメニ秦ノ孤立ノ弊ニヨリテ又諸侯ヲ立テ置クコノ時ニ天子ノ公領ヲ郡ト云河東郡太原郡ノ如キ是

リ諸侯ノ私領ヲ國ト云趙國中山國ノゴトキ是ナリ郡ニハ守アリテモシラ治ム國ニ王ハ事ニアツカラズ相ヲ置テコレヲ治ム董仲舒為江都王相黃霸為潁川守ト云カコトシ守相トモニ天子ノ官人ナリ故ニ西漢ノ書ニ郡國守相ト云コト多ク見ヘタリ

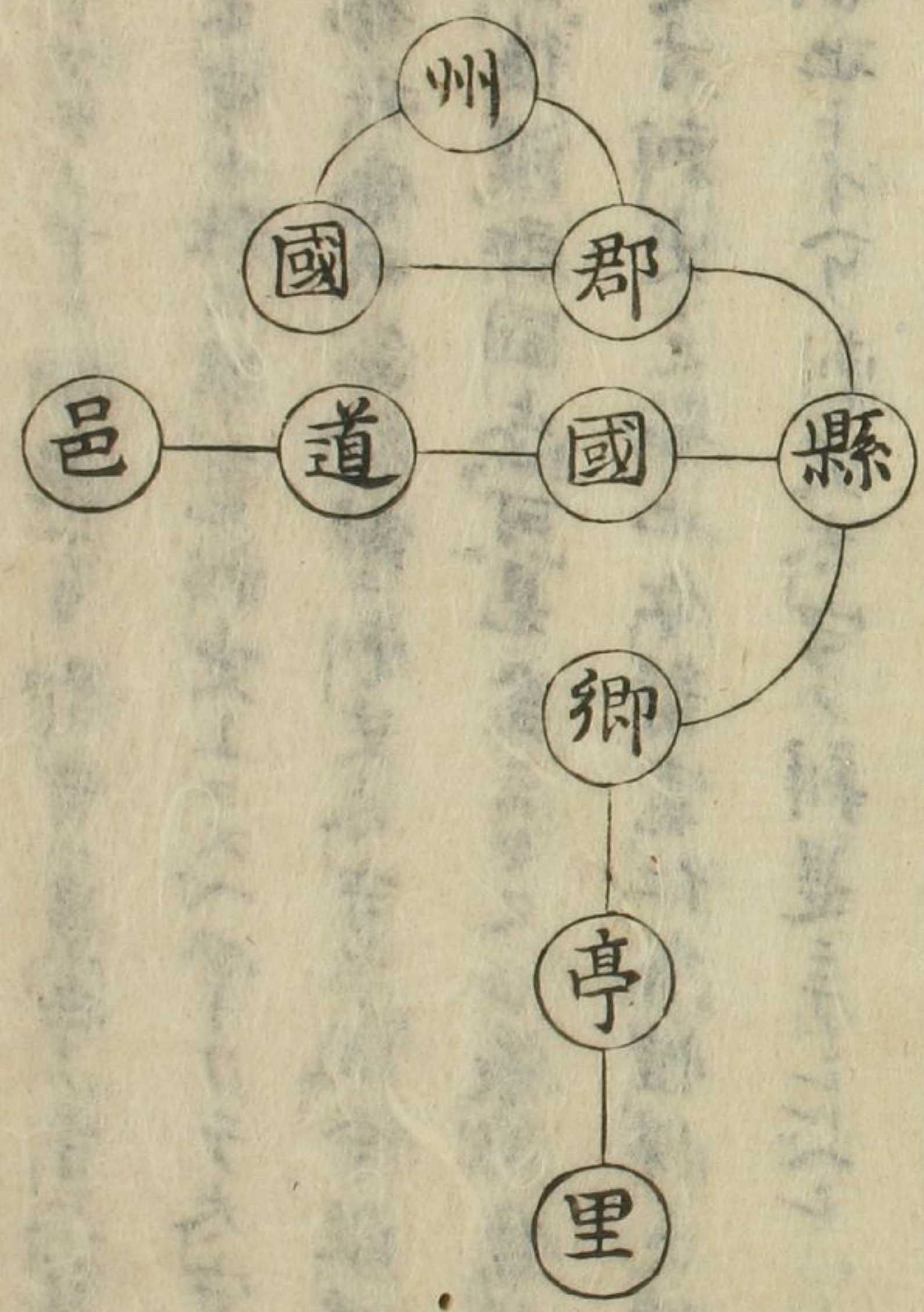
○前漢一代世々ニ郡國ヲワリ出シテ平帝ノ時ニ郡國百十一アリ是ヨリサキ武帝ノ元封五年ニ白初置刺史部十三州トコノ時ニ南ニ交趾ヲ置キ北ニ朔方之州ヲ置キ徐梁幽并夏商ノ制ヲカ子雍州ヲ改メテ涼州ト云梁州ヲ

改ノテ益州ト云天下ヲ十三部ニ大ワリシテ郡國ヲ各
其下ニ付屬ス部コトニ刺史一人ヲ置テワノ手下ノ郡國ヲ
察スルコトヲ掌ル是刺史ノハジメナリソノ時天下ニ刺史十
三人アリ刺ハ刺舉ノ義ニテ吟味スルコトナリ

漢	司隸校尉	豫州刺史	冀州刺史
十		兖州刺史	徐州刺史
三		青州刺史	荊州刺史
部		揚州刺史	益州刺史
刺			

○史 涼州刺史 幽州刺史
交州刺史 并州刺史

漢州郡統轄圖



○後漢ノ時モ大樣前漢ノ法ノゴトシ天下ヲ十部ニ分テ

各刺史スアリ前漢ノ末ヨリ時ニヨリテ刺史ヲ改メテ
 牧トイフツノ下ニ郡國アリ郡守ハ景帝ノ中二年ヨリ改
 メテ太守ト称ス畢竟刺史上ニスベ掌リテ太守下ニ承
 行フ楊升庵丹鉛總錄ニ刺史太守不同今混呼為一非
 也觀後漢郡國志可見矣云々又曰嚴能鷹揚有督
 察之才刺史之職也安靜寬仁有愷悌之德太守
 之職也トイヘリ刺史太守ノ辨是ニテシルベシ

○春秋トキニ六國ノ下ニスグニ邑宰アリ郷縣ノ名シリガタ
 シ周禮ニ稍甸縣鄙ノ名サメクアレトモタシカニヨリカタシ

ノ時ニ至テ秦ノ法ニヨリテ郡ノ下ニ縣アリ萬戸以上ノ縣ニ
 ハ令アリ萬戸以下ノ縣ニ長アリ何レモ丞ト尉ト各一人ア
 リ縣ノ下ニ郷アリ郷ノ下ニ亭十アリ亭ノ下ニ里十アリ
 ノ時天下ニ縣千五百八十七アリ郷六千六百餘亭二
 萬九千六百餘アリ縣ニテモ列侯ノ知行所十ニ六國ト云皇
 后公王ナレハ邑ト云蠻夷アレハ道ト云故ニ縣道國邑ト云
 コレ漢ノ時地理ノ大畧ナリ

○三國ノ時天下ニ三方ニワカレテ吳ハ東南ニ據リ蜀ハ西南
 ニ據リ魏ハ漢ノアトニ居テ北ニ在リ其後晉ノ武帝ノ時

三國ヲ一統シテ又郡國ヲ増置クツノ時天下ヲ十九州ニワリテ郡國百七十三アリ

○其後天下南北ニ分レテ南朝ノ土地日々ニセリ多ク州郡ノ名ヲ立ツ陳ノ時ニ州四十二郡百九アリ北朝宇文周ノ時ニ州二百十一郡五百八アリ大抵漢ヨリコノカタ南北朝ニテ八州ヲ以テ郡ヲスベテ州ハ禹貢ノ九州ニツク郡ハ秦ノ三十六郡ニヨリ世々ニワケ出シテハジノ十三部ニワリタル州後ニ二百四五十州ニ成リ刺史ノ権カロクシテ郡同キコトニナル隋唐ノ世ニイタリテツノ法ヲ改メラレ

○隋ノ開皇三年揚土希カ言ニヨリテ天下ノ諸郡ヲ罷州トシ州ヲ以テ縣ヲスブ大業中ニ又改メテ郡トス唐ノ武徳元年ニ又改メテ州トス天寶中ニ又改メテ郡トス郡ノ時ニハ奉行ヲ太守ト云州ノ時ニハ刺史ト云是ヨリ州ト郡トクガヒニ称シテイニシヘノコトクニ上下ノ差別ナシ郡ノ時ニハ太守ト云臨海太守ト云長樂太守ト云州ノ時ニハ台州刺史ト云福州刺史ト云カゴトシ故ニ杜佑通典ニ云自是州郡太守更相為名其實一也ト玉海ニ云凡乾元後所置州皆無郡名トコレニテ州ニ各郡名アルヲトスルヘシ

○唐ノ貞觀ノ初ニ天下ヲ分ツテ十道トス其後高宗ノ神龍二年ニ一^ニ道コトニ巡察使二人ヲ置ク又改^テ按察使一人ヲ置ク玄宗ノ開元十年ニ又増テ十五道トシテ採訪處置使ヲ置ク何^レモ漢ノ刺史ノ職ノゴトシ後又改^テ觀察使トス戎旅アル地ニ節度使ヲ置クソノ下ニ州アリテ刺史是ヲ掌ル州ノ下ニ縣アリテ令是ヲ掌ルソノ時天下ノ郡府三百二十八縣千五百七十三アリコノ後藩鎮ノ兵サカニテ唐ノ世大ニミタレ節度使土地ヲ專ニシテ遂五代ノ世ニオユヘリ

唐 十道 圖

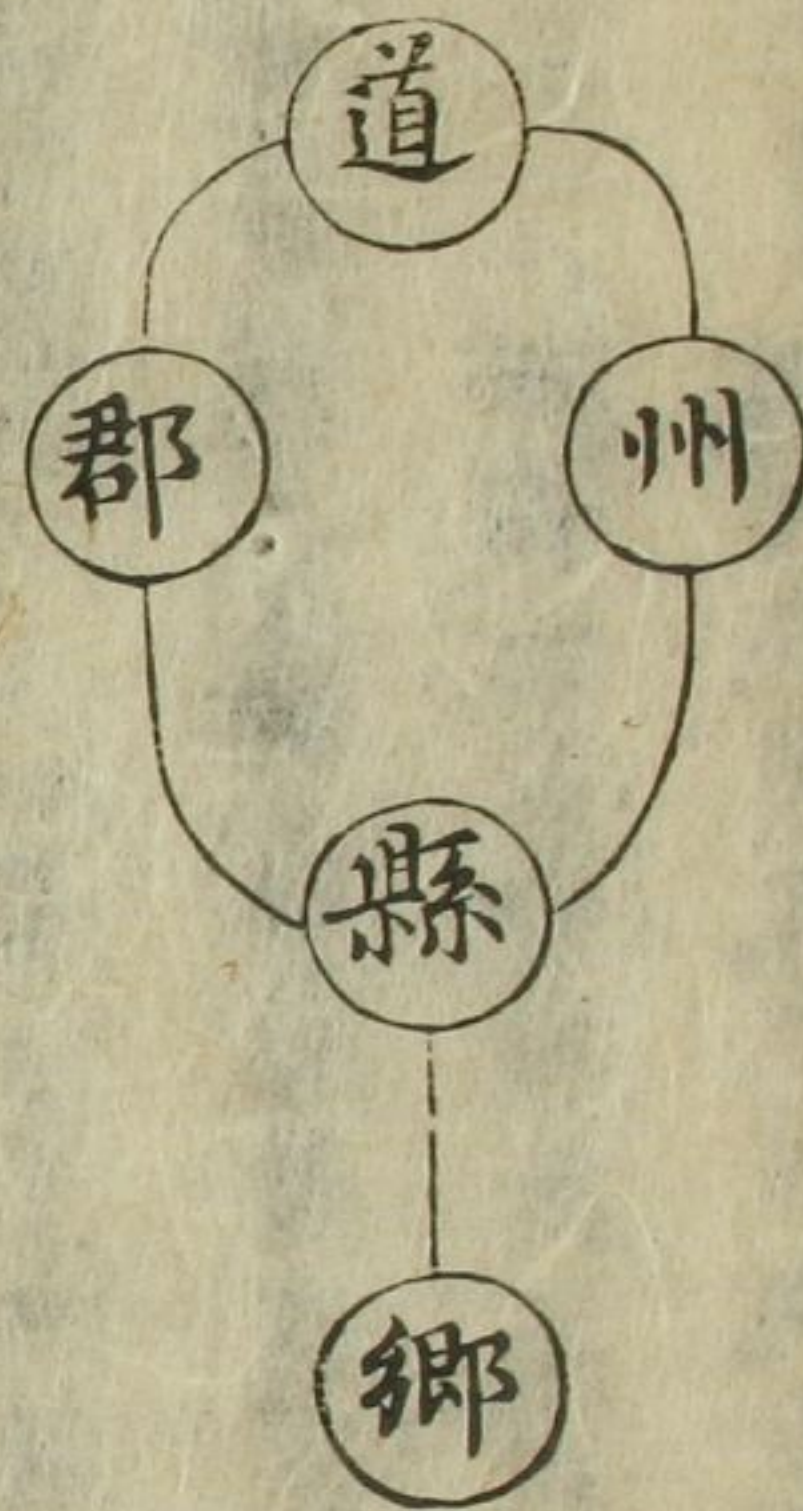
- 開内道 河南道
- 河東道 河北道
- 山南道 隴右道
- 淮南道 江南道
- 劍南道 嶺南道

玄宗ノ開元二十一年ニ分^テ山南江南為東西道又置黔中道京畿道都畿道為十五道

唐 地

州或改為郡州郡互稱
州則稱刺史郡則稱太守縣有縣令

理統轄圖



本朝之制分五畿七道道統國國統郡郡統郷郷國
有國司郡有郡司

○本國イニシヘ大八州ト云ハ淡路州伊豫二名州筑紫州
壹岐州對馬州隱岐州佐渡州大日本豐秋津州
ヲ云或ハ州ノ字皆洲ノ字ニ作ルコノ外六ノ小島アリコレヲ

合セテ十四島ト云フノ事舊事紀ニ詳ナリ何レモ海島ノ分
テヲ以テ之ヲカフヘテ土地ノ廣狹ニ拘ラズ

○神武天皇都ヲ大倭國橿原ニ定メ天皇ノ位ニ即キタ
ニラツノ時大倭國葛城國ノ造ヲ定メテ外功アルモノニ國
造ヲ賜ヒツノ次ハ縣主ヲ定メテラフコレヨリコノカタ代々ニ任
セラレテ和銅ノ比ニテニ總任國造百四十四アリシカレハ上世
ハ日本百四十四國ニテ國コトニ國造一人アリテコレヲ掌
造ハミヤツコト訓スレカレハ國中ノ神祇祭祀ノ事ヲツカセ
リテカ子テ民事ヲオサムルヘシ上世ノ風義ナリ

○日本紀 成務天皇四年詔曰云々自今以後國
 郡立長縣邑置首即取當國之幹了者任其國郡
 之首長是為中區之蕃屏也又五年秋九月令諸
 國以國郡立造長縣邑置稻置並賜稻予以為表
 則隔山河而分國縣隨阡陌以定邑里因以東西
 為日縱南北為日橫山陽曰影面山陰曰背面是
 以百姓安居天下無事

造首稻置等ノ名ハ本邑里ノ長ニテ民ヲ治ル官職ナ
 リ後世イツレモ朝臣宿祿ト同シク尸ノ名ナリ村主ヲス

リト云モ同キコトナルベシ古ハ一邑ノ長ヲ國語ニテスグリト云
 漢字ヲ以テ村主トカクツノ子孫ニ至リテ尸ト志ト見タリ
 職原ノ首書ニ上世國司云國造至皇極天皇始
 改國司至文武天皇改國司曰國守ト何ニヨリコト
 フレラズ日本紀ヲ考フルニ 皇極帝ヨリ以前 仁德帝
 ノ世ニ遠江國司表上言スト云コトアリ 崇峻帝ノ世河
 内國司即依符旨ト云コトアリ 皇極帝ノ本紀ニ國
 造ヲ國司ト改ムルコトニヘズ 推古天皇十二年ニ聖德
 太子十七憲法ニ國司國造勿斂百姓トアリ又天武

帝ノ本紀ニ諸國司國造郡司及百姓等諸可聽矣
 トアリシカレハ古ハ國々ニ造アリテツノ後又國司ヲ任シタ
 ニ國司國造ト並ヒ置カルトニエタリクノ内ニ國司ハ國造
 ヨリ位高ク權重シユヘニ國司國造ト並ヒ稱セラルナリ
 コレヨリノチ世々ノ國史ニ國司國造ト云コト所々ニアリ
 テ後世ニテモ國造ノ名アリ國造ヲ改メテ國司トスルニ
 アラズシカレハイツノ世ニ國造ヲ罷ラルト云コトモナク次
 第三廢スルトニヘタリ

○文武天皇ノ時國司ヲ改メテ國守ト云コトモアヤリナ
 リ是ハ今ハ文武帝ノ時ニ成テ國守アルニ因テイフナルニ國
 守ハ即國司ナリシカレトモ國ノ守ト云コト文武帝已
 前日本紀ノ内ニ見アタラズ

○孝德天皇二年遷都難波長柄豐崎又置畿内國
 司郡司凡郡以四十里為大郡三十里以下四里
 以上為中郡三里為小郡其郡司並取國造性識
 清廉堪時務者為大領少領強幹聰敏工書算者
 為主政主帳云々ト國郡ノ官人タレカニ定リタルコトハコノ
 時ヲ始トス守介掾目ノ名ハ三ヘザレトモ郡ノ大領少領等

タシカニ任セラル、カフハ國守ノ名アルコトシルヘシ又詔曰改去
 舊職新設百官及著位階以官位叙今發遣國司
 并彼國造可以奉問云々ト此等ノ文モトモアキラカナリ
 ツノ内郡司ハ所ノ任人ヲ任セラルナリツノツカサヲ國司ト云
 テ京ヨリ任セラルナリ

○五畿七道ニ分ツコト王代世々ニツノ漸アリ 崇神天皇
 十年ニ四道將軍ヲ發シテ四方ヲ平ケ大彦命ヲ北
 陸ニ遣シ武渟川^{ツツヌカハ}別ヲ東海ニ遣シ吉備津彦^{キヒヒツ}ヲ西道ニ
 遣シ丹波道主命ヲ丹波ニ遣ス北陸東海ノ名コト時ニ

見ヘタリツノ後 景行天皇ノ五十五年彦袂^{ヒコト}島王ヲ
 以テ東山道十五國都督ニ拜ス天武天皇十四年
 九月ニ京及畿内東海東山山陽山陰南海筑紫
 使者ヲ遣ハシテ人夫ヲ校シ百姓ノ消息ヲ察セシムコト
 時ニテ西海道ノ名イニダアラハズ專ラ筑紫ト稱シ太
 宰府アリ 持統天皇ノ代專ラ四畿内ト稱ス 文武
 天皇ノ時ニ遣明法博士於六道講新令分注ニ除西
 海道トアリシカレハコト時分ヨリ七道ヲ明カニ分ケラレタ
 トニハタリ

孝謙天皇ノ天平勝寶五年ニ佛經六十二部ヲ寫
テ六十二國ニ訖カシムルコトアリシカレハコノ時ニ日本ノ國六
十二ヶ國アリトシヘタリ

出羽 元明天皇和銅五年割陸奥國二郡置

丹後 同六年割丹波國五郡置

美作 同年割備前國六郡置

大隅 同年割日向國四郡置

和泉 元正天皇靈龜元年割河内國三郡置

和泉監

能登 同養老二年割越前國四郡置

安房 同年割上總國四郡置

石城 同年割常陸國六郡置

石背 同年割陸奥國五郡置

諏訪 天平三年并信州

佐渡 同十五年并越後天平勝寶四年又置

右共見續日本紀

加賀 嵯峨天皇弘仁十年三月割越前國江

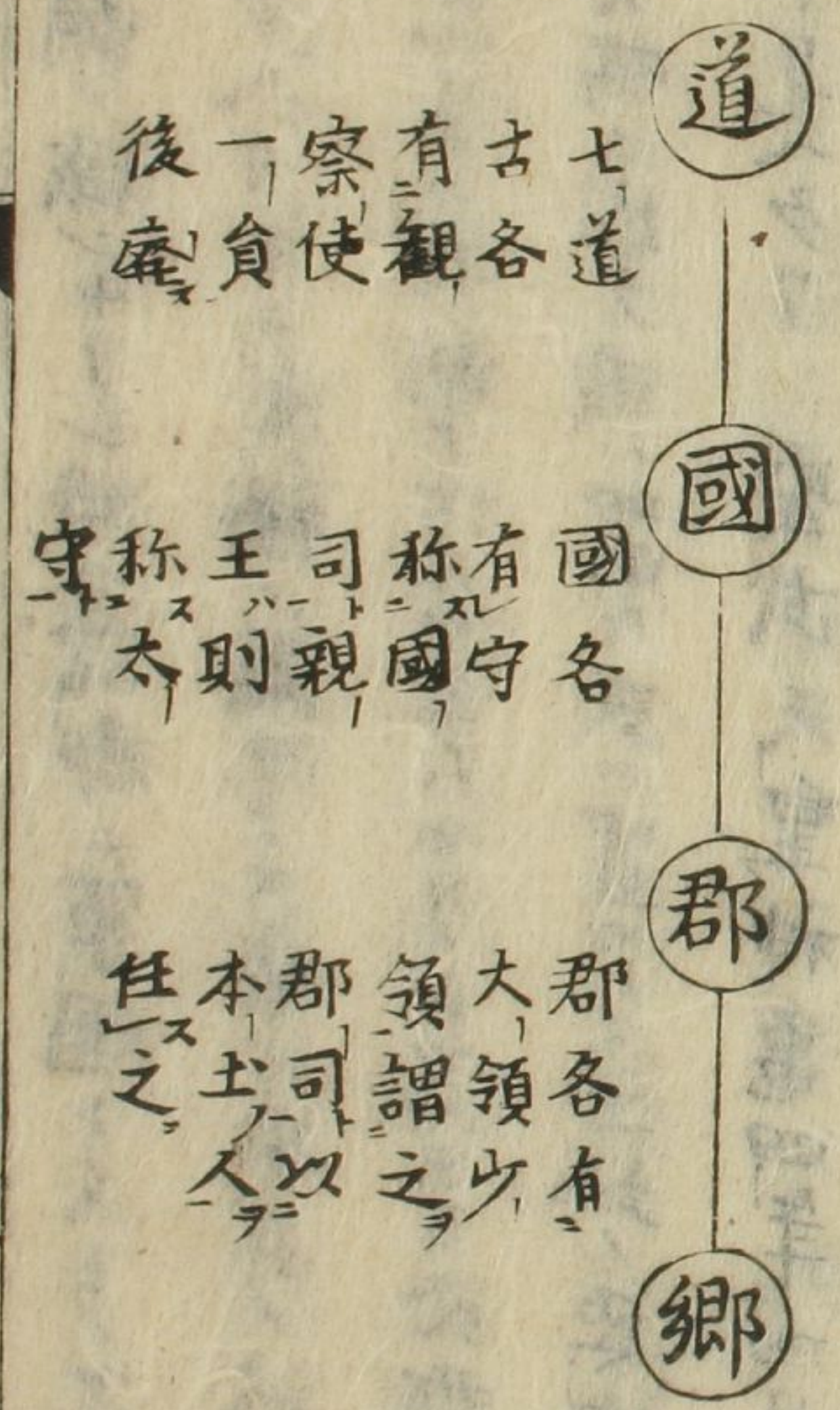
沼加賀二郡置見三代格

○嵯峨天皇ヨリ以後諸國ニ分割併省ナレ六十六國壹
 岐對馬ニ島邊要ニテ六十八國ナリ郡ハ古來ヨリ多
 少不同源順和名鈔ニノスル所六十六國アリテ郡凡テ
 五百九十八アリツノ後延喜式拾芥鈔并ニ近世所行
 郡用集ニノスル所イツレモ同シカラズ又訓ハ同キコトニテ文
 字同シカラザルアリ此譯語ノ異同シロテ考フルニ及バズ郡ノ
 下郷ノ名ハ和名鈔ニ詳ナリイツレモ事シゲレハ考フルニ
 イトミアラス

朝本 五畿内 東山道

五畿内 七道 圖道 本朝地理統轄圖

東海道 北陸道
 山陰道 山陽道
 南海道 西海道



制 卷二

○昔王朝ノ盛ナリシ時ハ諸郡ニ軍團ト云モノアリテ武士
 ラア一タ入オキテ兵衛ノ備ヲナス唐ノ府兵ノ法ニ準スソ
 ノ詳ナルコトハ兵制ノ下ニアラハセリシカレトモ必郡ゴトニシテ
 ルニ非ス所ニ因テ或ハ置キ或ハ置カレ土地ノ要害ヨリテ設
 ラルト見ヘタリ 聖武天皇神龜四年四月陸奥國
 請新置白河軍團又改丹取軍團為玉作團並許
 之トアリ是ニテシレヘシ白河玉作一陸奥ノ郡ノ名ナリ
 奥州ニ名取ト云郡アリテ丹取ナシ丹ノ字或ハ那ノ字
 アヤマリナラシカ又 桓武天皇ノ延曆三年十二月但馬

國氣多團毅外後六位上川人部廣人進私物ト
 云々是等ニコレハ郡コトニ團アルヤウニニヘタリ

○文献通考四裔考ノ内詳ニ日本ノ事ヲ著セリソノ中ニ
 云五畿七道凡三千七百七十二郷四百一十四驛八十
 八萬三千三百二十九課丁ト云々此ハ本朝 一條院ノ
 時宋太宗雍熙元年ニ當テ僧裔然入宋シテ日本
 ノ職負令并ニ年代記等ヲ獻スル時ニ國郡戸口ヨリ
 ヲ言上スルナリ裔然ハ嵯峨ノ清凉寺ノ開祖宋ニ入テ
 揚億ナト唱和シテ小説ノ内ニモツビラカナリ通考並ニ

宋史ニ因テコレヲ書ルス中國ノ人ハ後世ニテモコレヲ證據トシテ日本ノ事ヲ論スレナリ宋史ヲ考フヘシ

○五代ノ時天下分ツテ十一國トナル故ニ五代十國ト云フノ時梁ノ朱氏ハ天下ノ中ニテウヅカセ十八州ヲ有ツ唐晉漢周ヤ、増減アリ記スレニ及ハズ

○宋ノ時ノ法大様唐ノ制ニヨリ太祖太宗ノ時ニ四方僭偽ノ諸國ヲ討平ケテ太宗ノ至道三年ニ天下ヲ分テ十五路トス仁宗ノ天聖中ニ又三路ヲ増置キテ合セテ十八路アリツノ内ニ京府ニツ次府ハツ州二百五

二軍四十六監ナリニアハセテ二百二十二アリツノ下ニ縣千二百六十二アリ元豐ノ時ニ又析テ二十路トシ徽宗ノ時ニ段々増置テスベテ二十六路アリ

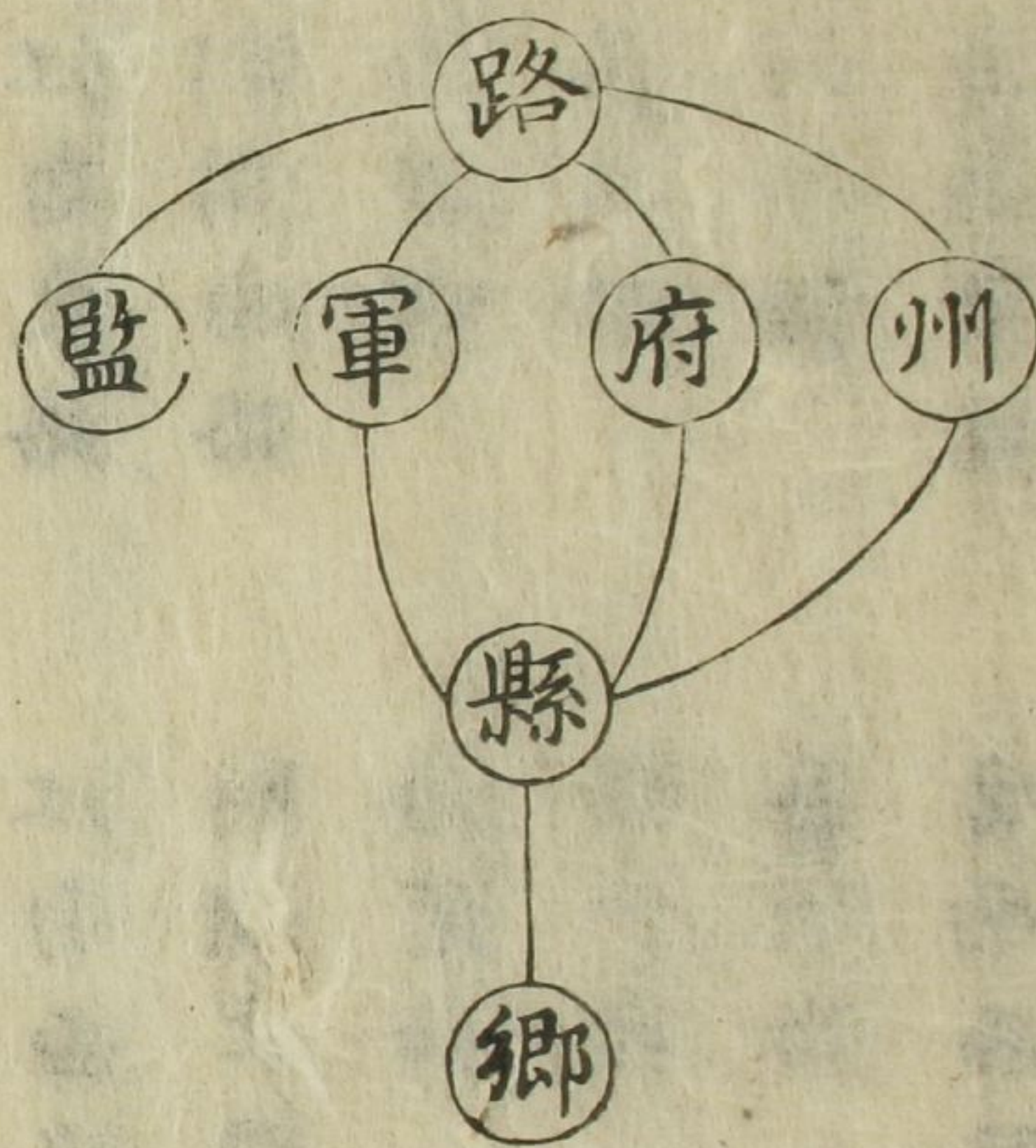
○ツノ時一路ノシミツラ監司ト云帥漕憲倉ノ四司アリ監司ト云コト宋朝ノ書ニ多クアルコトニテ本シレガタキコトナリ畢竟一道ヲ司トリテ古ノ刺史唐ノ觀察使ノ職ノコトナ州縣ヲ支配スル官ナリ其職一人ニカギラズ轉運使安撫使提刑使等ノゴトク一路ヲ司トル役人ヲ何レモ監司ト云帥ハ武官ナリ漕ハ運漕ヲ司ル憲ハ監察ヲ司ル

倉ハ倉廩ヲ司ル監司ノ内ニヨノ四等アリ本名目ニ官ノ名ニアラズ寧宗ノ時右正言應武カエテ祖宗以一郡之官總之太守諸郡之官總之監司而又以諸道之監司總之御史ト監司ハ一道ノカシラレト此等ノ文ニテアキラカナリ

○通鑑音武帝紀杜預カ上書ニ當委監司隨而彈之胡三省ノ注ニ云監司御史司隸及諸州刺史也ト監司ト云コトムカシヨリ称スト見ヘタリ然トモ唐宋ノ監司トハワケチカヒタリ

宋	京東路	京西路
十	河北路	河東路
	陝西路	淮南路
八	江南東路	江南西路
	荆湖南路	荆湖北路
	兩浙路	福建路
路	益州路	梓州路
	利州路	夔州路
圖	廣南東路	廣南西路

宋地統轄圖



○宋ノ時天下ノ疆理カクゴトシ一路ノ内ニ府州軍監ノ四ツアリ府州軍トモニ其下ニ縣アリ是ヲ掌ルモノヲ推知軍州事トス或ハ知州軍事トス即郡守ナリ監ニ縣

是ハ土地ノ要害模樣ニヨリテカクノコトクニ名ヲ立カヘタルト見ヘタリソノ内ニ府ハオモク州ハ是ニ次キ軍ハ又カロシ又州ニオノク郡ノ名アリ大觀二年ニ乾寧軍ヲ升ン清州トシ賜郡名曰乾寧トノコトキ類ニテシルヘシサテ軍ニ節度使アレトモタ、虛名ニシテ州ノ事ハ知州通判等ノ官コレヲ兼スブ節度使ハアツカラス宰相親王ノ加官タリ故ニ節度使ヲ以テ中書令侍中等宰相ヲ兼ヌル是ヲ使相ト云

○中國ノ州郡ヲ舉テ四百餘州ト云コト人々言習スコトナ

リ然レトモ中國ノ書ニハ多クニエズ説郭ノ内ニ呂東萊ノ
 紫微詩話ニ李方州贈汝州太守詩云安得吾皇
 四百州皆如此邦二千石ト總コノ詩ニアラハ宋ノ州
 四百ニテハナシ大畧ニアゲテイフナルヘシ又水滸傳首卷ニ
 宋ノ太祖ノ事ヲ称シテ曰一條桿棒等身齊打四百
 軍州都姓趙ト古今言口習ハスコト、ニエタリ

○元ノ時諸路ニ行省アリ魏晉ノ時ヨリ行臺ノ名アリ北
 魏ニ是ヲ尚書大行臺ト云テ官屬ヲ置ケリ隋ノ時ニ
 是ヲ行省ト云又行臺省ト云開皇八年ニ淮南行省ヲ

壽春ニ置ク是ヲ行ト云コトハ尚書省ハモト朝廷ノ官府ナリ
 是ヲ外地ニ置カルニヨリテ行ト云行宮行殿ノ行ノコトシ唐
 ノ初ニモ亦行其臺ヲ置キ所々ニ大行其臺尚書省アリ貞觀
 年中ヨリ是ヲ罷スル元ノ行中書省コレヲ祖トシタルト見
 ヘタリ明ニイタリテ初メハ元ノ通りニ行省アリクノ後十三
 省ト云モ元ノ行省ト云ヨリ来ルト見ヘタリ

○明ノ時ニ天下ヲ分ツテ十五省トス南直隸ハ南京應天
 府ニ屬ス北直隸ハ北京順天府ニ屬ス是ハ漢ノ三輔唐
 關内道ノゴトク天子ノ都ノニハリナリコレヲ直隸トイフ

隸隸屬ノ意ニテ一道ノ州縣直ニ朝廷六部ニ隸屬ス
ヘナリノ外ニ十三省アリアハセテ十五省ナリ

○十五省ニ省コトニカシラ役ノ官府各ニケ所アリ一ラ承宣
布政使司ト云ソノ長官ヲ承宣布政使ト云又畧シテハ
布政使トモ云一道ノシオキヲ掌シフノ一ヲ提刑按察使
司ト云ソノ長官ヲ提刑按察使ト云又畧シテハ按察使
トモ云一ノ道ノ刑罰按劾ノ事ヲ掌シケレヨリ以下ニ官人ア
ラアリ廣治平畧云明朝官制分テ天下為十三省而
財賦屬之布政刑獄屬之按察云々コノ二司畧稱

テハ布按二司ト云又藩臬トモ云明人ノ幼學須知云布
政司曰藩按察司曰臬ト是ナリ又コノ外ニ巡按巡撫
ノ御史アリ是ヲ合セテ撫按藩臬ト云

○會典云國初沿元朝立行中書省於外以統府州
縣州縣俱隸府縣或又隸州州或直隸省洪武七
年以京畿應天等府直隸六部改行中書省為浙
江等十二布政司永樂十八年革北平布政使司
為直隸云々又洪武十五年雲南布政司ヲ添設ス
永樂中ニ貴州交趾ノ二司ヲ増ス宣德ノ時ニ交趾ヲ罷

ラレテ合セテ西直隸十三省アリ

明西直隸三十省圖

- | | | |
|-----|-----|-----|
| 北直隸 | 南直隸 | 山東省 |
| 山西省 | 陝西省 | 河南省 |
| 浙江省 | 江西省 | 湖廣省 |
| 四川省 | 福建省 | 廣東省 |
| 廣西省 | 雲南省 | 貴州省 |

北直隸ハ古ハ禹貢冀州ノ地ニシテ北京ソノ中ニ在リ金
 元ノカタク舊都ニシテ明ノ第二王成祖ノ時ヨリコレニ都
 シ定公南直隸ハ古ハ禹貢揚州ノ地ニシテ三國ノ吳東

晉宋齊梁陳イハ五六朝ノ舊都コノ處ニアリ即金陵
 南京ナリ明ノ初々太祖一代ハコレノ處ニ都ヲ定メコレノ外十
 三省アリテ合セテ十五アリ古ハ九州唐ノ十道ノコトニ志
 ノ沿革委細ノ事ハ大明一統志修攘通考等ニ詳ナリ

明省府統轄圖



又按スルニ北京ノ順天府南京ノ應天府ハ直隸ノ中ニア
 リトイヘトモ直隸ニ属セズ天子ノ居處ナレハナリ是モ本
 朝平安城山城ノ國ニアリトイヘトモ山城ノ郡郷ニアツ
 カラザレカコトシ會典州縣ノ下ニ京師并直隸地方トイ
 フニテシルベシ

○明ノ時十三省ノ下ニ府アリ府ノ下ニ州アリ州ノ下ニ縣アリ
 府ト州トハモト同キコトニテ唐宋ノ州郡ナリ土地ノ様子大小
 ノ勢ニヨリテアエタノ州ノ内ニテ某州府ト立ラルコトナリソ
 ノ下ニ府ノ下ニモ縣アリ又小キ州ニハ縣ナクシテスグニ府ニ属ス

ルモアリ府ノ奉行ハ南京應天府北京順天府ニ府ヲアリ其
 餘ノ各府ニ各知府アリ州ニ知州アリ縣ニ知縣アリ

○大明一統志云我皇明誕膺天命統一華夷幅員
 之廣東盡遼左西極流沙南越海表北抵沙漠而
 疆理之制則以京畿府州直隸六部天下分為十
 三布政司曰山西曰山東曰河南曰陝西曰浙江
 曰江西曰湖廣曰四川曰福建曰廣東曰廣西曰
 雲南曰貴州以統諸府州縣而都司衛所則錯置
 於其間以為防禦總之為府一百四十九為州一

百二十八為縣一千一百五而邊陲之地都司衛
所及宣慰招討宣撫安撫等司典夫四夷受官封
執_レ臣禮者皆以_レ次具載_レ於志焉

古今和漢ノ制度通シテ是ヲ考フルニ古ハ九牧ト云漢ニ刺
史ト云唐ニ巡察觀察等使ト云宋ニ監司ト云元ニ行
省ト云明ニ藩臬ト云名ハカレトモ其任ハ同キコトニテ一道ノ總
奉行ヲシテフノ下ノ國々ヲ統タルモノナリ 本朝イニシハ五畿
七道ニケ毎道ニ觀察使一人アリ後ニ參議ニ改メ之即
ソノ任ナリ州ノ上ニテハ秦漢ノ郡守隋唐ノ州刺史宋已來

知州長又一體ナリ 本朝ニテハ太守國司即ソノ任ナリ縣ニ
テハ秦漢コノカタ今マト云長ト云宋已來ハ知縣ト云是又一體
ナリ 本朝ニテハ郡領是ナリ然レトモ郡領ハソノ土ノ人ヲ用ヒ
テ明ノ土官ノトシ又外任ニ任セラレ其位甚卑シ郡司ト云即是リ
○又曰イニシハ天下ヲ九州ニワリ漢ヨリ已來部ト云コノ名義解
スルニ及ズ唐宋ニ道ト云路ト云明ニ省ト云 本朝モ唐ノ制ニ
ヨリテ道ト云人々國ノアツメタル道トハカリオモフハアタラス
是ハフノ國々ヘ行く道一スジナルニ其一スジノ國々ヲ某道ト
云ナリ 本朝モソノ通リニテタトハ東山道トイハ近江ヨリフニ

出シテ奥羽ニテスジノ山道ナルユヘニコラ東山道ト云カシ武藏ノ國ハ本東山道ノ内ナリ巡歴ノ便不勝ナリユヘニ東海道ニ改メ屬セラルコト續日本紀 光仁天皇宝龜二年ノ下ニ詳ニ見タリ曰武藏國ヲ改東山道屬東海道公私得所人勇有息トコレニテレシ省ト云至隋唐時ハ其所ノ官府ノ名ナリ明ノ時ニ六省ハ官府ノ名ナレトモ其支配ノ國々地ヲ一統ニ省ト云福建省福州府福清縣トイフタキ是ナリ其名義ヨリテオコルコトクノコトレスベテイハ古ヘ九州漢己東ノ部唐宋元明ノ道ト云路ト云省ト云ニテ天下大ワリノ名ナリ

▲郡縣大小等差ノ事

○郡縣ノ名秦ノ時分ヨリハレシトモ其時郡ノ品ヲ立ツルコト見ヘス漢ノ元帝建昭元年ニ制アリテ戸十二萬ヲ大郡トシカレハコノ時ヨリ天下ノ郡ヲニ等ニワカト見ヘタリ其後北齊ノ時ニ上中下ノ三等ニワケ又一等ヲ三等ニワリテ上上郡ヨリ下下郡ニテ凡九等アリ唐ノ時郡ヲ州ニアラタシテ開元年中ニ天下州府ノ次第ヲ定ム京都及ヒ都督都護府ノ外近畿ノ州同州華州岐州蒲州ヲ四輔トス本朝ノイニシハ四畿ト云今五畿ト云カコトシ其餘ノ州

ヲ雄望緊上中下ノ六等ヲワカシ戸四萬已上ヲ上州ト
 ス二萬五千已上ヲ中州トス二萬ニ不滿ヲ下州トス雄州
 望州緊州ノ戸數ノコトハ見ヘス是ハ土地ノ要害ニヨリテカク
 ノゴトクニ立ツルナリ

唐 州 六 等 圖

- 雄州
- 望州
- 緊州
- 上州 四萬已上
- 中州 二萬五千已上
- 下州 不滿二萬

○縣ノ事周禮ニ縣正アリ春秋ノ時ハ縣ハ大ニシテ郡ハ小ナ
 リ故ニ傳ニ云上大夫受縣下大夫受郡トイヘリ戰國ノ
 時ニナリテハ郡ハ大ニシテ縣ハ小ナリ甘茂秦ノ武王ニ謂テ
 云宜陽大縣名曰縣其實郡也トイヘリ是ヨリ後世ニイタ
 ルニテ縣ハ州郡ノ下ニ屬ス

○漢ノ時秦ノ制ヲ受テ縣有令有長萬戸以上ヲ令減萬
 戸為長ト杜氏通典ニ云縣率方百里ト後世モ是ニ準
 スヘシ其後世々縣ニ令長アリ後魏隋ノ時モ同キコトナリ北
 齊ノ時ニ制アリテ縣モ郡ノゴトクニ上々ヨリ下々ニテ凡九等ヲ為

本朝之制凡國四等有_二大國上國中國下國之_一差
郡五等有_二大郡上郡中郡下郡小郡之_一差

○本朝上世ノムカレ國郡大小統轄ノ制詳ナラズムカレヨリク
ニト云ヒムラト云ヒサト、云ヒコホリト云ヒアガタト云フイツレモ土
地ノ名ナリ郡國鄉里縣邑等ノ字ヲ用ヒテ之ヲ譯スコレ
因リテ先王ノ制某國某郡某鄉ト大小相ツニ子テ之ヲ別
ツ神武紀ヲ考フルニ菟狹國ト云吉備國ト云筑紫國
ト云又難波ヲ浪速國ト云又河内國草香邑倭國磯
城邑又菟田縣名草邑等ノ名アリニカレハワノカミ大止ラ

クニト云小ナルヲアガタト云ムラト云コトシルヘ後世漢字ワタリ
テ後郡國邑里大小ノ義アルヲ以テ譯シテコレヲ分ツトミハ
リソレヨリ段々明備ニシテ國郡鄉里ノ別定トリ

○本朝地理ノコトヲシルスニハ近江國甲賀郡ト書ヌ正法ナリ
モレ畧シテ漢名ヲカリ用ユルナラハ江州甲賀縣トカクベシ
或ハ江州甲賀郡トカクハ倭漢雜亂シテ當ラズ

○本朝イニシヘ國郡ヲ分ツコトハ何レノ世トイフコト詳ナラス
成務天皇ノ時詔シテ諸國郡ニ造長ヲ立テ縣邑ニ首
或ハ稻置ヲオクシカハ此ヨリ以前ニ郡縣ノ別ハアレトモ官

守タシカナラズコノ時ニフノ守護ノ官ヲ定メタマフナリ 孝徳天皇ノ時ニ至リテ戸口郡郷ノ制イヨク明備ナリ大抵本朝上世ノ治武畧ヲ以テ天下ヲ平定シタマフコトハ 孝徳天皇ヲ多シトス紀綱法度ヲ立テタマフコトハ 景行天皇ヲ盛ニシリトス國史ヲ考テニルヘシ

○孝徳天皇二年ニ改新ノ詔ヲ宣ヒ制法ヲ定メラルコノ時ニ天下ノ郡ヲ三等ニ次第ヲタテ四十里ヲ大郡トシ三十里以下四里以上ヲ中郡トシ三里ヲ小郡トスイツレモ大領少領主計主帳等ノ官人アリ里トイフハ道ノリノ里數ニアラ

ズコノ時ニ五十戸ヲ定メテ一在所トシテ是ヲ一里トイフ一里コトニ里長一人アリテ是ヲ掌ル

○文武天皇大寶年中ニ令ヲ定メラル、時ニ六郡ヲ五等ニワカツ二十里以下十六里以上ヲ大郡トス十二里以上ヲ上郡トス八里以上ヲ中郡トス四里以上ヲ下郡トス二里以上ヲ小郡トスコノ時ニモ一里トイフハ家數五十間アルヲイフ令ニ云ル戸以五十戸為里ト是ナリサテ所ニヨリテ一里ノ家數五十間ニアリ六十間ニモ及フトキハ別ニ二里ヲ立ルナリモ十間ニ滿タザハワキノ大村ニワリイルイツレモ令

並ニ義解ニ具サナリ

本朝國郡等差圖

大國	上郡	大郡
中國	中郡	
下國	下郡	小郡

右ノツモリナハ千戸ヨリハ百戸ニテノ所ヲ大郡トス六百戸以上ヲ上郡トス四百戸以上ヲ中郡トス二百戸以上ヲ下郡トス百戸以上ヲ小郡トスレカハツノカミノ一郡トイフモ

○金クシテ戸口モ多カラサルコト是ニテオシレルヘシ今時ハ少クノ聚落ニモ千戸數千間ニ滿ルトコロアマタアリ太平日久シクイニシヘヨリモ人民ノ繁昌ナルコトシルヘシ

○又曰唐ノ時道ノ下ニ州アリ又郡トモ云フノ下ニ縣アリ縣ノ下ニ鄉アリ漢已來大樣コノ通リナリ 本朝コレニ準シテ之ノ道ノ下ニ國アリ國ノ下ニ郡アリ郡ノ下ニ鄉アリ鄉ノ下ニ村里アルコト倭漢トモ同キコトナリ郡郷ノコト順倭名抄ニ具セリ

○五代周ノ廣順中ニ縣ノ差等増損一ナラザルニヨリテ更ニ次第

ヲ立テラレ赤縣畿縣改赤次畿ヲ除クノ外其餘三千戸已
 上ヲ望縣トス二千戸以上ヲ緊縣トス千戸以上ヲ上縣トス
 五百戸以上ヲ中縣トス五百戸ニ不滿ヲ下縣トス是唐法
 ニヨリテ増損スルト見ヘタリ

○宋ノ時州ニ上中下アルコト詳ナラズ縣ノ制ハ五代周ノ時ノ
 制ニヨリテ上縣ヨリ以上オシナヘテ千戸ツツヲ加ヘミシ千戸以
 上ヲ中トシ千戸ニ滿タサルヲ中下トシ五百戸以下ヲ下トス

○金ノ時ハ唐宋ノ法ヲウケ赤縣劇縣次劇京縣上中下七
 等ニ分ツニ萬五千戸以上ヲ劇トシ三千戸ニ滿サルヲ下縣ト

ス劇トハ繁劇トツキテイツカワシキ場所ナリ

○元ノ世祖至元ノ初諸路ノ總管府ヲ置ク二十年ニ定メテ十
 萬戸以上ナルモノヲ上路トシ十萬戸以下ナルモノヲ下路トシ
 衝要ニ當ルコト十萬戸ニ及バストイヘトモ上路トス上路ノ
 司ハ位正三品達魯花赤一人總官一人アリテ之ヲ掌ル
 兼テ勸農ノ事ヲ管^{アタ}又江南既平ケソノ地ヲ定メ五萬戸
 以上ナルモノヲ上州トス三萬戸以上ナルモノヲ中州トス三萬戸
 不及モノヲ下州トス縣ハタ、三等ニカツテ上中下トス六千戸
 以上ヲ上縣トス二千戸以上ヲ中縣トス二千戸ニ不及モノヲ下縣

トスイツレモ續文獻通考ニ詳ナリ達魯花赤ト云ハ蒙古
 辞ナリツノ義葉子奇カ草木子ニ詳ナリ曰元路州縣各
 立長官曰達魯花赤掌印信以總一府一縣之治
 達魯花赤猶華言荷包上壓口捺子也亦猶古總
 轄之比トコレテツノ義アキラカナリ荷包トハ中著ノ正壓
 口捺子トハコノ方ニテ云オジメノコトシカレハ達魯花赤ト云
 ハ今ドキ役人ニ本ジメト云カゴトシ

○明ノ時府州縣各上中下ノ三等アリ府ハ洪武六年ニ三等
 ヲ定メラレ縣ハ太祖イダ天下ヲ一統セラセ時吳元年ニ定ラレ

明	府	州	縣	各	三	等	圖
上府	中府	下府	上州	下州	上縣	中縣	下縣
賦二十萬石以上	賦二十萬石以下	賦十萬石以下	視府	視縣	十萬石以下	六萬石以下	三萬石以下

○太祖ノ洪武十四年ニ詔シテ天下ノ府州縣ニ各賦役黃冊

ヲ作ラシムナ戸ヲ一甲トシテツノ外ニ甲首一人アリ十甲ヲ一
 里トシテ丁糧多キ者十人ヲ推テ里長トス合セテ百十戸ヲ
 リ城中ニ坊ト云近城ニ廂ト云郷都ニ里ト云坊ニハ坊
 長ト云廂ニハ廂長ト云里ニテハ里長ト云イツモ十人ヲ一丁
 年ニハリニシテ十年ニテ一通リアマテシコノ方ニテ年行事トイ
 フガコトシ一里ノ事ヲ管攝スコノ外鰥寡孤獨ノトモカ役
 ニ任セザル者八百十戸ノ外ニ帯管シテ圖ノ後ニ列ス是ヲ時
 零冊ト云時零トイフハ算數ノハシタノコトナリツノ詳ナリコト
 ハ大明會典戸部ノ内ニアリ明ノ時縣ノ下ノ民戸ノワリカク

ノコトシ治平畧ノ文下ニ之ヲ舉ク

○治平畧云洪武十四年詔天下府州縣編賦役黃
 冊以一一百一十戸為里推丁糧多者十戸為長餘
 百戸為十甲甲十戸名全圖其不能十戸或四五
 戸若六七戸名半圖城中曰坊近城曰廂郷都曰
 里里各編一冊冊首為總圖鰥寡孤獨不任役者
 則繫于百一十戸之外著之圖尾曰時零帶管冊
 朝鮮ノ國タル古ヘ周ヨリ以前ハ易韓辰韓弁韓ト三
 ツニ分レフノ外小國アミタアリコレヲ三韓ト云ワノ後朝

鮮ト云周ノ武王殷ヲ伐テ天下ヲ有チタニラ後殷ノ
 師箕子ヲ朝鮮ニ封セラルフノ子孫漢ノ時ニテコレアリ
 漢コレヲ滅シテ四郡トスフノ後新羅百濟高句麗三
 ツニワカレコレヲ三國ト云新羅朴昔金ノ三氏相互ニ國
 ヲ有ツ高句麗ハ高氏ナリ百濟ハ扶餘氏ナリ唐ノ高
 宗ノ時新羅百濟高句麗ノ三國ヲ伐ヒシテ三國ヲ
 一統スツノ國ノ人コレヲ統三ト云五代ノ時ニ至リテ新羅
 國ニヒテ王建ツノ國ヲ有ツコレヲ高麗ト云スノ時ニ高
 麗滅ヒテ李成桂ツノ國ヲ有チ朝鮮ト號スフノ年代

地理ノコト漢已來ノ史冊並ニツノ國ノ書ニ國史記東
 國通鑑等ニ詳ナリツノ州郡ノコト倭漢ノ制度ニツ
 カルコトニ非サレトモ本朝ニ隣リスルユヘ古ヘヨリ使聘ノ
 往來アルコト諸ノ外國ヨリモシタシ故ニラノ疆域州郡
 ノ大畧ヲコノ處ニ附シテ者ス

○宋史高麗傳云以新羅為東州樂浪府號東京
 百濟為金州金馬郡號南京平壤為鎮州號西
 京西京最威總之凡三京四府八牧郡百十八
 縣鎮三百九十洲島三千七百郡邑之小者或

只百家男女二百十萬、口兵民僧各居其一ト云々
三國一統ノ後高麗國宋ノ時ニ當リテノ戸口如此今
ノ朝鮮モオシレヘシ

○新羅ノ時ハ三國一統シテソノ國ヲ九州ニ分ツ郡縣四
百五十アリ高麗王氏ノ時ハ宋ノ至道年中ニソノ國
ヲ分テ十道トス朝鮮李氏ニ至リテハ道ニ分ツ京畿
道忠清道慶尙道全羅道黃海道江原道平安
道永安道ト云フノ下ニ州府郡縣アリ經國大典考事
撮要等ノ書ニ詳ナリ

○續文獻通考云東西南瀕海北隣女直西北抵
鴨綠江東西二千里南北四千里ト云々是ハ二千
里ニ四千里ヲ四方ニシテイフニアルニシ國ノハツレヨリハツ
レニテヲ算シテツモルナルヘシムカシ漢ノ武帝ノ時ニ朝鮮
ヲ滅シテ暫ク中國ノ有トスソノ時ニ玄菟樂浪臨屯
真蕃ノ四郡ヲ置ケリ後世ニ及テ次第ニ名目ヲ張大
ニシテ新羅ノ時ニ九州ニワリ王氏高麗ノ時ニ十道ニ
ワリ朝鮮李氏ニ至リテハ道ニ定ルナリ唐宋ノ十道
二十三路ニ準ズレドモ畢竟四郡ノ地ニテ人衆二百

萬人餘アリト三ヘタリツノ上唐ニテモ 本朝ニテモ道
 州縣鄉村ト段々ニ小ワリアリ是ハ土地ヒロキユニ大
 小相合シテ入レ子ニシテ段々ノ名ヲ立ラル、ナリ朝鮮ニ
 ハ道ノ下ニ直ニ州或ハ府或ハ郡或ハ縣アリテ段々ノ
 小ワリナシシカレハ朝鮮ノ一道ト云ハ倭漢ノ一州一國
 ホドノ地ニテフノ下ニ村里ヲ大、小ニヨリテ或ハ州或ハ郡
 或ハ縣トワリ出スト三ヘタリ大、抵四方ノ國々ノコト中國
 ノ書ニノスルモタシカナラサルコトアリ續通考ニ日本ノ地
 理ノコトヲ記ノ曰若、盡其國界、則東西長行、可、四

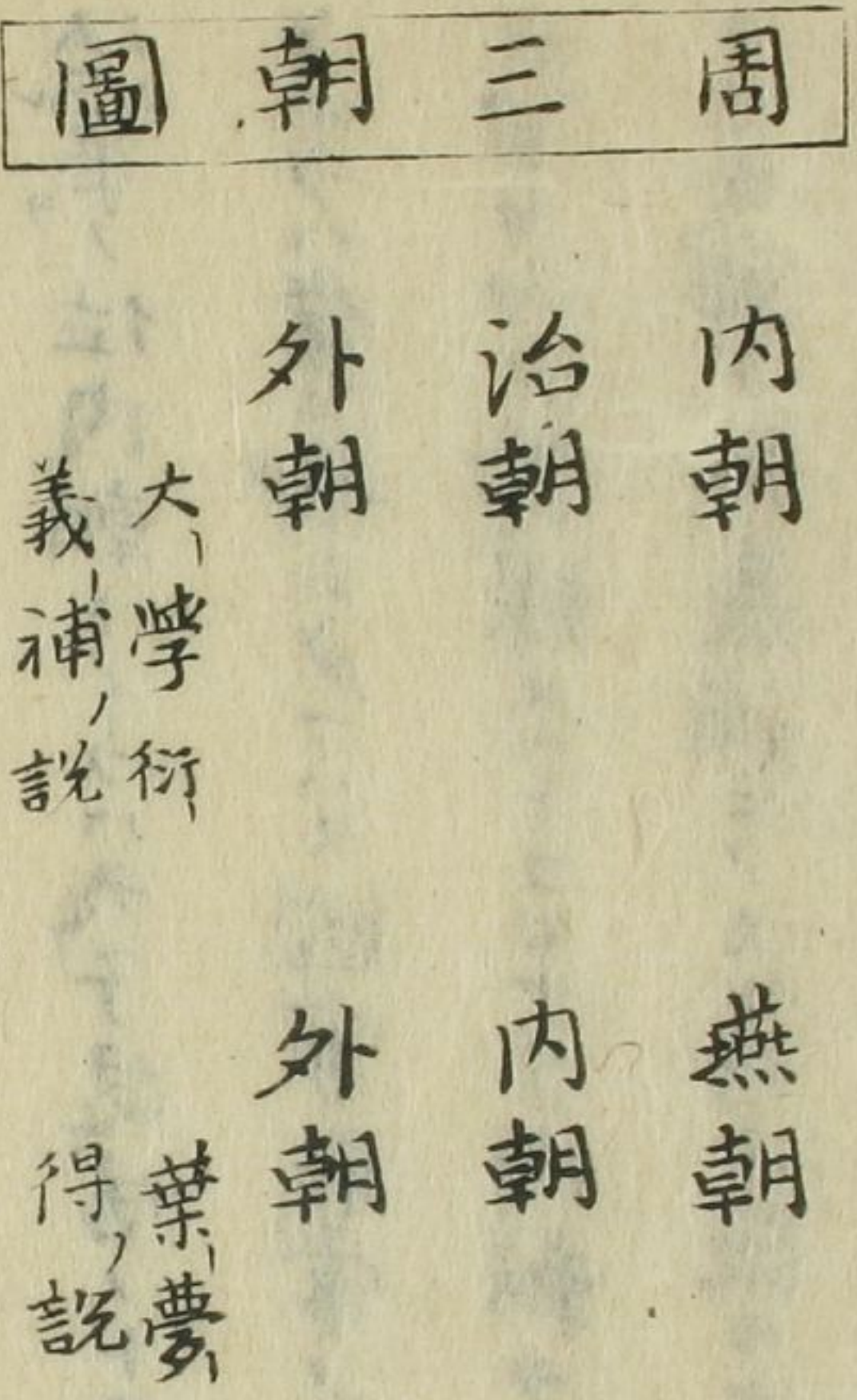
五月南北短行、三月、而皆極於海、其西北至高
 麗也ト云々中國路程ノツモリヲ以テ言ハ一日ニ百里
 ニテ一月ニ三千里ナリシカレハ三月行ハ九千里五月行
 ハ一萬五千里ナリコレニテハ中國ノ幅、負トモア、ナリ
 タガハサルヤウニキコユシカルニ日本ノコトヲ粟散、偏地
 ノ國ト云ハ何ノ故ゾヤ吾オモフニ西南海中ニ無數、小
 國アリテ粟粒ヲ散スガコトシ故ニコレヲ粟散ト云
 佛書ヨリ出ルナルヘシ天地ノ間ニテ、中國ニ對スル國
 ハ日本ト韃トナリ明人ノ書ニ南倭北虜ト云モコトナリ

▲内朝外朝並ニ朝會ノ事

○周ノ時天子ニ三朝アリ内朝治朝外朝ト云治朝トイフハ常ニ
 治事^レノ位内朝トイフハ天子退居ノトコロ御休息ノ場ナリ外朝
 トイフハ常ニ御シタマハス國家非常ノ事アル時分ニ御シテ萬
 民ヲアツン詢謀スルトコロナリ内朝ヲ亦燕朝トモ云即路寢
 ナリ大學衍義補ニスル所ノ説カクノコトシ

○又葉夢得カ説ニ外朝内朝燕朝ヲ三朝トイリ又治朝アリ
 内朝ハ常ニ群臣ニ見ヘタニラ或ハ是ヲ路朝ト云燕朝ハ政ヲ聽
 シニラ或ハ是ヲ燕寢ト云ト上ノ説ト同カラス又杜氏通典ニ

四朝トクテ、外朝中門内朝詢事之朝トイヘリ何レモ後世ヨリ周禮ニヨリテ見クテタレモノナニヨリ説々同カラズ畢竟表向ノ御殿ト内證ノ便殿トヲカクノ如クニ立ルモノナリ漢唐ノ制法皆是ニモツク



○漢ノ時大會殿後殿アリテ周ノ外朝治朝ニ準ス高祖ノトキニ蕭何未央宮ヲ作オモヘラク前殿アル上ハヨロシク後殿アルヘシ

會殿ヲ外朝トシ宮中ニ後殿アリテ是ヲ治朝トス

○三國魏ノ明帝ノ時昭陽太極殿ヲオコス太極ノ名コノ時ニハシレリツノ後唐ニ至ルニテ代々太極殿ヲ正殿ノ名トス唐類函ニ初學記ヲ引テ云歷代殿名或治或華唯魏之太極自晉以降正殿皆名之ト是ナリ又山謙之丹陽記云太極殿周制路寢也秦漢曰前殿今稱太極為前殿洛宮之號始自魏

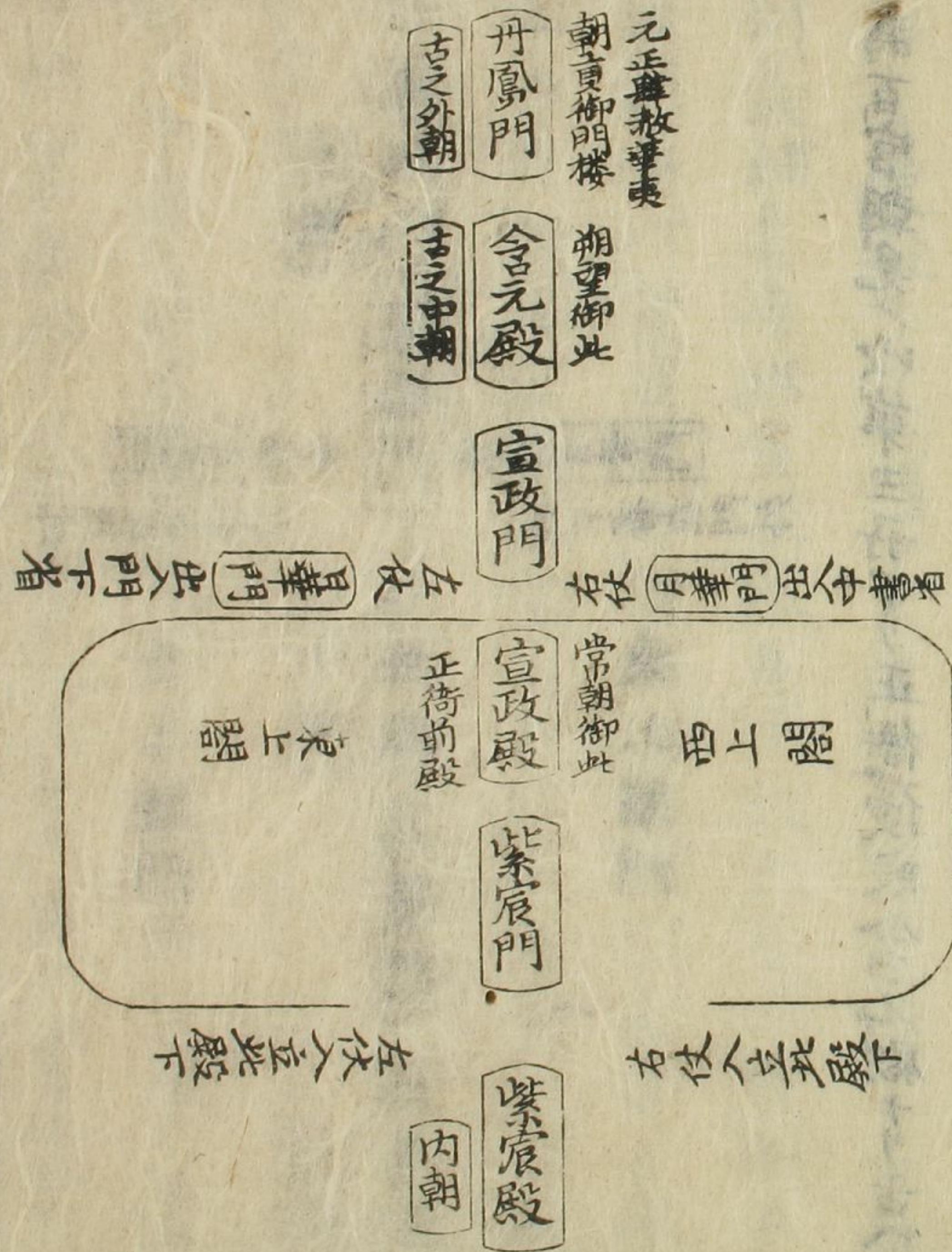
○隋時開皇三年文帝新都ニ入りワ城ヲ名付テ大興城ト云正殿ヲ大興殿ト云是ハ文帝カレ大興郡ヨリ隋公ニ封セラルニヨリトイヘリ程大昌雍錄曰唐都本隋都也唐高祖武德元年改大興殿為太

極殿宮門為承天門云々

○唐ノ時ニ東内西内ト内製ニツアリ東内ハ大明宮ナリ西内ハ大極宮ナリ東内ニ含元殿ヲ以テ正牙トス西内ニ大極殿ヲ以テ正牙トス又興唐宮都城ノ東南角ニアリ人王此ニオイテ政ヲ出ス故ニ又南内ト云正牙ハ又正衙ニ作ル天子ノオモテムキノ本御殿ナリ牙ハモト武士ヲ瓜牙トイフヨリオコリテ大將ノ門ニ牙旗ヲ立ラテ牙門ト云是ヨリサシクニ轉傳ニテオシナテ文武ノ役ヤレキヲ牙門ト云ソノ後文字モ衙ノ字ニ後ニ遂ニ天子ノ御殿ヲ衙ト云イハユ正衙是ナリ是ヨリ又武士ノ番ヲスルコトヲモ坐衙趨衙ト云サシクニ用ユレトナリ 本朝ニテモ古ヘモラ通用ス大正記

唐三大殿圖

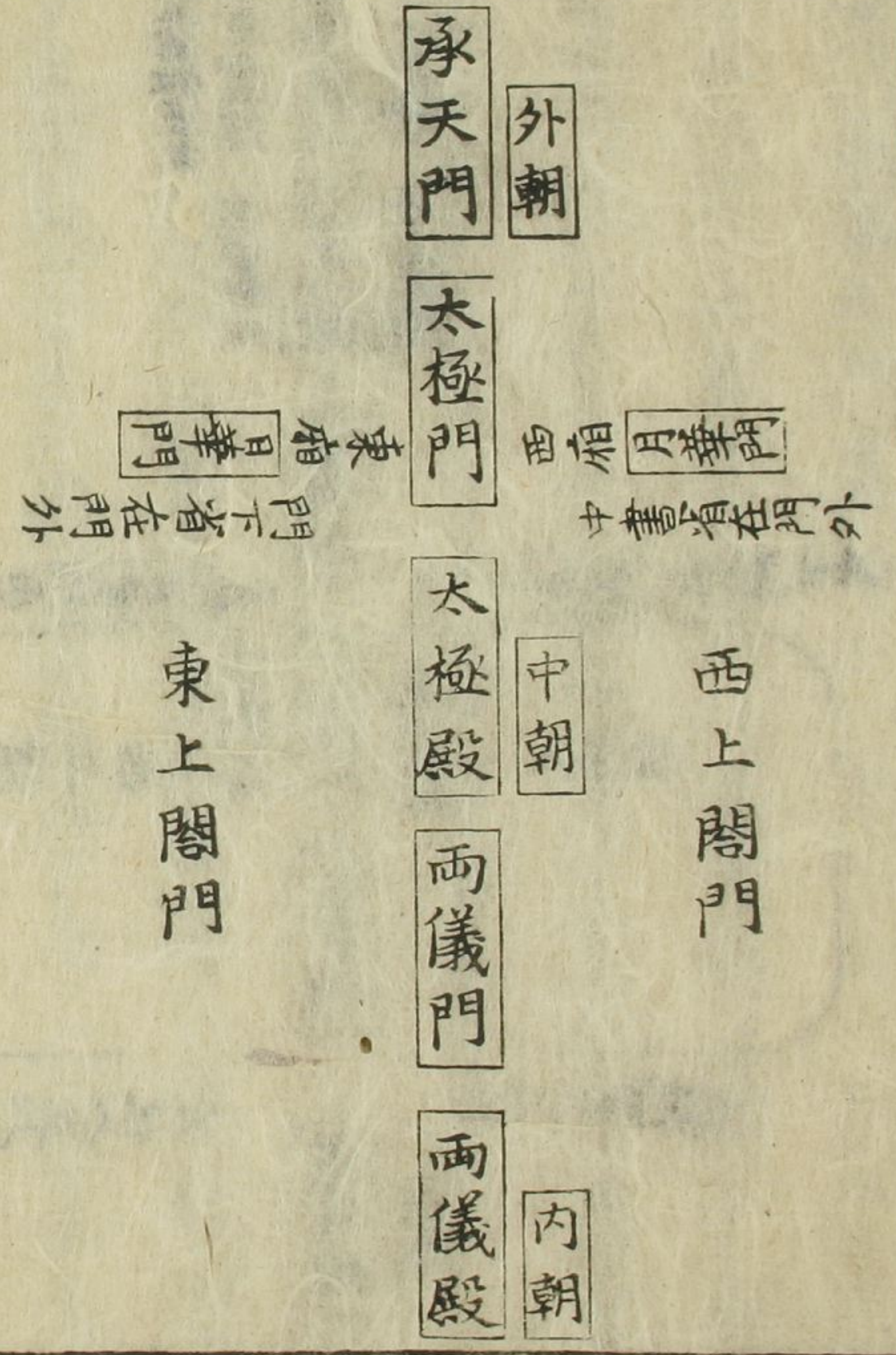
ニ義貞殿延醫寺衙ナト云モ官衙ヨリカリ来ルコトナリ



制殿通

卷二

唐西内三朝圖



○唐ノ時百官朝見ノ次第三所アリ正衙便殿含元殿ナリ古ヘノ三朝ニテ古ノ正衙トイフハ宣政殿ノ事ニテ古ノ治朝ナリ

便殿トイフハ紫宸殿ノコトニテイニハノ燕朝ナリ正衙コトヲ常參ト云便殿コトヲ入閣ト云コノ外ニ又含元殿アリ下ニ詳ニ行義補ニ云唐以宣政殿為前殿謂之正衙即古之治朝也以紫宸殿為便殿謂之入閣即古之燕朝也而外別有含元殿含元非正至大朝會不御正衙則日見群臣百官皆在謂之常參是ニテ古ノ大畧レルベシ

○唐ノ時朝參ノ法文武官職事九品以上並ニ王ノ後ハ毎月朔望ニ參内ス又官五品以上及兩省供奉官等ハ

毎日朝参ス是ヲ常参官ト云武官三品以上八日二一度朝参ス是ヲ九参官ト云五品以上並ニ折衝當番ノモノハ五日二一度朝参ス是ヲ六参官ト云弘文館崇文館國子監學生共四時ニ参スノ詳セテハ唐書百官志ニ具サリ

本朝之制 太極殿為正殿有紫宸等十一殿又有

六舍三坊

○拾芥抄云太極殿正殿名云八省院是也又謂之乾大殿又云八省院天子臨朝即位諸司告朔所或云躡朝堂院又云紫宸殿俗云南殿九間四面

庇天曆御記云紫宸殿秦川勝宅所云々本朝制平安城アリ皇城アリ宮城アリ平安城ハ左京右京ナリ皇城ノ内ニアリ東西八町南北十町ナリ太極殿ヲ正殿トス諸司百官ノ内ニアリ宮城ノ内ニアリ即所謂内裏ナリ紫宸殿清凉殿等ノ内ニアリ

○宋ノ時ニ唐五代ノ制ニヨリテ文武官毎日常明殿ノ正衙ニ赴テ常参ス神宗ノ元豐中ニ官制ヲ改メラレテ侍從官以上毎日垂拱殿ヘ朝参スヲ常参官ト云五日二度紫宸殿ニ朝参スヲ六参官ト云其餘朔望ニ紫宸殿ニ朝

参スヲ朔望参官ト云是又衍義補ニ見ハル

○明ノ時六日ゴトニ天子便服シテ奉天門ニ出御シ文武ノ百官ソレノ位ニ班ヲ分テ侍立シ謝恩辞見等ノモノ自見ヘオハリテ五府六部次ヲ以テソレク行フベキノ事ヲ奏聞ス禮畢リテ天子輦ニ乘シ武英殿或ハ文華閣ニ往キ夕ニテ是ニテ百官ノ章疏ヲ閱ス午時ニイタリテ又出御シ晚ニイタリテ羔シカリ又朔望ニハ天子皮弁服ヲ服シ正殿ニ出御シ奉天門ニイテ朝ヲ視シフコト常儀ノコトシ明朝朝参ノ法カクノゴトニ衍義補ニ云一日三朝自古帝王所無也ト

○明ノ時内朝外朝ノ制博物典彙ニ見ハル曰内朝則文華殿外朝則奉天殿ト是ナリ

○漢ヨリ以來大朝會ノ禮アリ又是ヲ大享ト云ヒ朝賀ト云本朝ノ節會ノコトナリ博物典彙ニ黃氏曰國朝朝會之禮参用漢唐宋之舊漢以十月朔行饗會二千石以上上殿上壽唐以正旦千秋節含元殿受朝賀宋以正旦五月朔冬至千秋節行大朝會於文德殿此今之大朝也ト黃氏ノイハル國朝トイフハ明ノ世ヲサス明ノ時ニ常朝大朝トイフコトアリテ唐宋ノ常参

六、糸朝、糸朝、糸朝等ヲ常朝ト云是ハ平生ノ糸内ナリ漢唐
 已來朝會トイフヲ大朝トイフ節日ノ大會ナリ太祖時正
 至聖壽ノ時分ニ奉天殿ニテ朝賀ヲ受ケ宴ヲ謹身殿及
 東西廡ニ賜フ是又典彙ニ詳ナリ正、六元日ナリ至、冬至ナリ
 聖壽ハ天子ノ生日ナリ又萬壽聖節ト云

○朝賀ノコト三代ノ時分ニコレナシ漢ノ高祖七年ニ長樂宮成
 就スコノトシ十月ニ諸侯並ニ群臣朝賀ス丘瓊山オモヘラク
 後世正月ニ朝賀ノ禮ヲ行フハジリナリト高祖ノ時ニ秦ノ
 正朔ヲ受テ十月ヲ正トセラル、ユヘニツノカニハ十月ニ朝賀ア

リ武帝ノ時今ノ正月ニ改メラレトモ朝賀ハツノニ十月ニ行ヒ
 後漢ノ世ニナリテハジテ正月ニ行ヒ國魏晉ノ世又冬至ノ日行ヒ
 唐ノ玄宗ノ時ニ帝ノ生日八月十五日ヲ千秋節ト名ツク後世天子ノ
 生日ヲ節トシテ表賀スルハジリナリ明ノ時前代ノ故事ヲ承行
 ヒ元且冬至聖誕ノ三ツヲ三大節トシテ朝會ノ儀アリ

○本朝節會ノコト正月ニ三度アリ諸書ニ詳ナシハクハシクアゲス
 冬至ノ宴會ノコト 聖武天皇神龜二年御大安殿受、冬
 至、賀、辭、又五年天平三年四年ニモコトアリシカレトモ一、早ノ
 朔日ニアラス 桓武天皇延暦三年十一月朔日ニ慶賀ノ禮ヲ行

上田租ヲユル本朝朔旦冬至ノ禮國史ニアラハルハ是ヲハジ
 トス是ハ黃帝ノ二十二年甲子ノトシヲハシメテ延曆三年
 ニテ三千四百二十一年ナリニ遂五廿五ヲ除キテ六廿六ノ章首ニテ
 タル是ヲ延曆三年トスツレヨリ後十九年コトニ必至嘉節ヲ得
 是ヲ朔旦冬至ト云江家次第第十卷ノ注ニ具サナリ

一章トイフハ曆家ニ十九年七閏ニテ氣朔分盡ク十一
 月朔旦冬至ニアタル是ヲ一章トイフ一章ヲ四ツアセタ
 ルヲ部ト云部二十ヲ紀ト云ニ紀ヲ元ト云後漢書ニ詳ナ
 リ廿六部ノ字ノ畧ト見ヘタリ遂ト云ハ一紀ノコトナルヘシ

▲宮殿名稱ノ事

- イニレヘヨリ至尊ノ所居ヲ宮ト云管子ニ黃帝ノ時ニ合宮
 アリトイヘトモ上世ノコト固ニレシナレ夏桀瓊宮鹿其至ヲ作
 ルト云春秋ノ時ニ桓宮僖宮アリ魯ノ桓公僖公ノ朝ナリ孟子
 ニ雪宮アリ齊王ノ別業ナリレカレハ周ノ前ツカタヨリタカ
 ニ宮ト號シタルコトニヘタリレカレトモ古ハ上ノ下ニ通シテ宮ト云テ
 必ス天子諸侯ニカキラズ父子異宮ト云フニテミルヘシ
- 三輔黃圖ニ秦文王黃陽宮ヲ作ル穆公斬羊宮ヲ作ル
 等ノコトタレカニ見ル其後阿房宮望夷宮等オコリテ漢ノ

世ニ長樂建章等ノ宮アリ後世ニテサシクノ名辨アリ事物
 紀原云商君之書有言天子之殿則是秦自孝公而
 來已云然矣蓋秦始曰殿也漢因之ト大抵古書ニ殿閣
 ノ名ニハズ秦漢ノ比ヨリハジニトミタリ

○宮ト殿トノ差別諸書ニアラハズ漢唐ノ制度ヲ考フルニ甚ワ
 カチアリ宮ト云ハ王侯ノ所居總ガヘナリ今時ノ俗ニヤカタヤ
 レキト言フガコトシ殿トイフハツノ中ニアル殿堂ノ建モノコトナリ
 秦ノ時ニ阿房宮ノ内ニ阿房前殿アリ漢ノ制度ヲ考フルニ
 未央宮ハ周回一十八里中ニ宣室麒麟等二十二殿アリ

建章宮周回二十里ニシテ中ニ玉堂神明等二十六殿
 リニ輔黃圖ニ詳ナリ又唐ノ時ニモ大明宮ノ内ニ含元殿
 宣政殿等アリ華清宮ノ内ニ飛霜殿九龍殿等アリ是
 等ニテルヘシ又法苑珠林ニ隋王劬舍利感應記ヲ引テ
 云皇帝以仁壽元年六月十三日御于仁壽宮之
 仁壽殿ト宮ノ内ニ殿アルコトコノ文ニテニスクアキラカナリ
 朱子答萬正淳書云古人宮室之制前有門中有
 堂後有寢凡為屋ニ三重而通以墻圍之謂之宮ト是
 ニテ宮トイフハ本總カヘノ築地ヲイフコトニルヘシ又太子皇

后ノ所御ヲ宮ト云春秋ノ時ニ東宮ト云漢ノ時ニ后宮長
秋宮長信宮トイフ漢以來モ皇太后ノ宮ヲ某宮ト名ツ
ルコト例多ク見ル又六宮後宮トイフ是モ攝ノ館アリト見タリ

本朝之制 宮殿

○本朝宮殿ノ名漢唐ノ稱トカハルコトナシ 神武天皇ノ本紀
ニ高島ノ宮檜原ノ宮ト云カゴトキハ皇居ヲスベテ云ナリツノ後
世々ニ某ノ宮ト云イツレモ同キコトナリツノカミミヤト云詞ヲ宮
ノ字ヲ用テ之ヲ譯シトト云詞ヲ殿ノ字ヲ用テ譯スツノ
後隋唐已來漢土ノ名稱ヲ用ヒラレテヨリ太極殿紫宸

殿ノ名アリ又太皇太后宮皇太后宮皇后宮ヲ三宮ト
云イツレモ後宮ノ稱ナリ此等ノコトイツレモ漢唐ノ稱ト同シ

○五代以來宮殿ノ名ニタ漢唐ノ法ニヨル宋ノ時ニ唐ノ大明
宮興慶宮等ノコトキ名アルコトヲキガス明モ亦シカリ南京
北京ニ皇城宮城アリテツノ内ニ宮殿樓閣アリ乾清宮
坤寧宮ノゴトキハイツレモ内證ノ御殿ナリ

▲都邑坊城並ニ皇城宮城門號ノ事

○夏殷ノ時都邑ノ制詳ナラズ周ノ制周禮匠人ノ職ニテワ
 ムク匠人營國方九里旁三门國中九經九緯經涂
 九軌左祖右社面朝後市ト是ハ周ノ時天子ノ都廣
 サナリ又一説ニ天子ハ十二里公侯伯子男ニ通シテ九里
 七里五里三里ノ差アリト其詳ナルコトハ周禮ノ疏ニ具サナ
 リ天子ノ都カクノコトキノ廣サニテ四方ニ三门ツクアリテ合
 セテ十二門ナリ注ニ云十二門通十二子ト是ナリ國中ト
 イフハ注ニ云城内也ト皇城ノ内ヲ云宮城ノコトニアラス經

緯トイフハ道スジナリ南北ヲ經ト云東西ヲ緯ト云一門ゴトニ
 三スジアリテ東西各九スジアリ是ヲ九經九緯ト云サテ道
 ハノ廣サ車ヨリツモリ出シテ乘車六尺六寸ニ輻カケテ八尺
 是ヲ九ツナラフホトニ作ルシカレニヨリテ九軌ニテ七十二尺ノハ
 是ヲ經涂九軌ト云緯ノコトハ詳ナラズ周禮ノ事周公ノ書ト
 言レ傳フレトモ其コトハタシカナラズレカレトモ周ノ制大槩オシレヘシ

○漢ノ時長安城中タテヨコ各三十二里十八步城ノ四面各
 三門アリテタテヨコ九達アリ周禮ノ制ト相同シ漢舊儀曰
 長安城中經緯各長三十二里十八步八街九陌

三宮九府三廟十二門九市十二橋ト又三輔決錄ニ云
 長安城面三門四面十二門皆通達九達以相經緯班
 固カ西都賦ニ云披三條之廣路立十二之通門ト前漢
 都邑ノ制大畧コノ通りナリ

前	漢	十	二	門
霸城門	宣平門	鼎路門	章城門	雍門
長安東	東出	南出	西出	西出
出南頭	北頭	南出	南頭	北頭
清明門	覆盜門	便門	直城門	洛城門
東出	南出	南出	西出	北出
二門	東頭	三門	二門	東頭

圖 厨城門北出第 横門北出

○後漢ノ時都ヲ洛陽ニウツシテ京師ト云東西二十里南北五
十里民家十萬六千餘間アリ方三百步ヲ以テ一里トス里
コトニ四門ヲ開ク後魏ノ高祖都ヲ洛陽ニウツシテ東南各
三門西四ツ北二ツ一門ニ三道アリ所謂九遠ト云是ナリコレ
後漢己東都邑ノ制ナリ後魏楊銜之ヲ洛陽伽藍記ニ詳ナリ

後 上東門東面 中東門東面
漢 耗門東面 開陽門南面
十 平城門南面 津門南面

二 廣陽門南面 雍門西面
門 上西門西面 夏門北面
圖 穀門北面 小苑門北面

○唐ノ時長安ノ都ヲ京城ト云テ北周並ニ隋ノ時ノ舊法ニヨ
ルシノ北周ノ時ニ長安ヲ分ツテ萬年縣長安縣トス隋ノ
時ニ改メテ大興縣トス唐ノ世ニナリテ高祖ノ時ニ舊跡ニ復シ
又萬年長安ノ二縣ヲ立テ並ニ赤縣トス萬年縣宣揚
坊ニ治シテ朱雀街以東五十四坊ヲ領ス長安縣長壽
坊ニ治シテ朱雀街以西五十四坊ヲ領ス治ト云ハ政所ナリ

○唐ノ都城三重アリ京城皇城宮城ト云京城ト云ハ長安ノ
總都ヲ云 本朝ニ在テイハ平安城ナリ皇城ハ皇居ノ總
ガニノ内ナリ官府ソノ内ニ在リ 本朝ニ在テイハ所謂大
内東是ナリ宮城ハ皇居ナリ雍錄云六典唐都城三重
外一重名京城内一重名皇城又内一重名宮城亦名
子城子城之内入殿者為殿門也ト云々子城ハ城ノ本丸
ノコトナリ

○唐ノ時長安京城十門東南西各三門北一門アリ皇城ハ
京城ノ中ニ在リ東西五里百十五步南北三里百四十步

ナリ東西各二門南三門南ノ中央ヲ朱雀門ト云又洛陽ニ
東都ヲ置キテ皇城ハ都城ノ西北隅ニ在リ唐六典並雍錄ニ詳

唐	長安	京城	十門	圖
通化門	春明門	右東面三門		
延興門	明德門	右南面三門		
安化門	金光門	右西面三門		
延秋門				
開遠門				
光化門		北面一門		

唐皇城七門圖

延喜門	東面二門北
景風門	同南
朱雀門	南面三門中
安上門	同左
含光門	同右
安福門	西面二門北
順義門	同南

本朝之制平安城以東曰左京領三十坊以西曰右京領三十坊南北九條皇城在其中四面凡十四門

○本朝都邑ノ制 神武天皇ヨリ已來處々ニ遷都アリ
 元明天皇ノ時平城ニ都ヲ定メタリ 光仁天皇ニテ茂
 七十五年ノ間左京右京坊城等ノ制畧ツナレリト見ヘ
 タリシカトモフノ詳ナレトシルヘカラズ 桓武天皇ノ延曆十
 三年正月甲午使ヲ遣シ山背ノ國葛野郡宇太村ノ地都
 ヲ遷シタラ都邑坊城ノ制今ニイタリテ考フヘシソレヨリサキ
 ノ制法又是ニヨリテオシレヘシ延曆十三年甲戌十月遷幸
 アリテ後詔曰云々山背ノ國ヲ改メテ山城ト名ク又都ヲ平
 安京ト名ヅケラルコトコノ時ニ定ル日本後紀ニ詳ナリ

○左右京ノ廣サ東西三十二町ニ南北三十八町ナリ朱雀通、
 左京右京ノ間ニアリテ路幅二十八丈ナリコレヨリ東ノ分
 ヲ左京トス左京職是ヲ掌ルツノ内ニ町六百八保百五十
 坊三十六アリ東ノ分レテ京極ト云コノ間東西十六町ナ
 是ヲ左京トス朱雀ヨリ西ノ分ヲ右京トス右京職是ヲ
 掌ルツノ内所保坊ノ數左京ト同シ西ノ分レニ又京極アリテ
 是ニテ又十六町ナリ左京ノ京極ハ今ノ寺町通りナリ朱雀
 街ハ今ノ千本通りナリ是平安城左右京ノ大畧ナリ

○皇城ハ一條ニ條ノ間ニアリ今ノ大宮ヨリ西ナリ東西八町

南北十町ナリ皇居官府トモニラノ内ニ在リツノ南門ヲ朱雀門
 ト云ニ條ヨリ南ハ一條コトニ坊名アリテツノ間ニ坊門アリ

○坊保ノツモリハ市宅一間ノ廣サヨリオコル市宅一間ヲ間口五丈
 ニ裏行十丈ト定メ是ヲ一門ト云左京ハ西北ヨリカクヘ右京ハ
 東北ヨリカクフ是ヲ八間並ヘタルヲ一行ト云今ノ町宅片カ
 ノツモリナリコノ一行ヲ左京ハ西ヨリカクヘ右京ハ東ヨリカクヘ四
 ツ並ヒニテ一町ナリ拾芥ニ云一町之内有四行一行之内
 有八門ト是ナリ圖ヲ按スルニ二行ツ、裏ヲアハセテ中ニ道々
 ジアリ今ノ半町ツ、突抜ナリサテカクノゴトキ一町ヲ四首

結、如クニ四ツ並ヘタルヲ一保ト云カクノ如キ一保ヲ又四ツ目結ノ如クニ
 並ヘタルヲ一坊ト云又カクノゴトキ一坊ヲ西東ニ四ツ重テタルヲ一保ト云
 左京ハ西ヨリカクヘ右京ハ東ヨリカクフステテコトイハ一保ノ内ニ四坊ナ
 六保六十四町アリ拾芥ニ云凡一保之内有四坊一坊之内有十六町
 十六町之内有四保ト是ナリ畢竟八戸ヲ為行四行ヲ為町四町
 為保四保為坊四坊為條ナリ左右京トモカクノゴトニ

○今ノ人一條通りヲ桃花坊ト言ヒ二條通りヲ銅駝坊ト言テ
 一通りノスジノ名トオモフハアマニナリ總別條トイフハ上ニ攀
 ル通りハ四町ニタテテ十六町ノ場ナリ今ノ地理ニ在テイハ本

ヨリ寺町ニテノ間ニ條三條ノ間是ヲ三條トシテイニ教
 業坊ノ地ナリ其餘コレニ準スソレユヘ今ニイタリテモ二條以
 下毎條相サルコト四町ニテソノ間ニ坊門アリ

本	朝	左	右	京	九	條
桃花坊	教業坊	永昌坊	宣風坊	淳風坊	安寧坊	
東一條	東一條	東一條	東一條	東一條	東一條	
銅駝坊	毓財坊	永寧坊	宣義坊	光德坊	疏財坊	
東二條	西三條	西四條	西五條	西六條	西七條	

坊名圖

崇仁坊 東

延嘉坊 西八條

陶他坊 東

開建坊 西九條

羅城門

平安城郭門二重閣七間

朱雀門

皇城門也大内正南門

應天門

宮城門

平安城三門圖

平安城外ヨリ内へ入ル三重ノ門ナリ周ノ時天子ニ五門アル
カトシ羅城門ハ平安城ノ正南門京都ノ南ノ入口ナリ舊
址今ニ在リ朱雀門ハ即十二門ノ朱雀門皇城ノ正南

門ナリ唐ノ時之ヲ丹鳳門ト云丹鳳ハ昂朱雀ト其義一
ナリクノ舊址今キ本ニ條邊ニアタルノ内ニ皇居並ニ百
官諸司アリ皇居是ヲ宮城ト云ク門ヲ應天ト云百官府ノ外
在リ

○應天ノ名易ノ革ノ卦應天順人ヨリ出ツ朱雀ノ事南方
ノ星象タラト亦明カナリ羅城ト云コトソノ義詳ナリヨレニ代
實錄拾芥抄モツノ説アリ羅城ト云ハ總曲輪ノコトナリ通
鑑唐懿宗紀ニ不移時克羅城房曾退保子城ト云ク
胡三省カ注ニ羅城外大城也子城内小城也ト又唐書高

祖本紀ニ築京師羅郭起觀于九門ト明人ノ湧幢小品南京外羅城ト云々朝鮮ノ崔世珍カ訓蒙字會ニ郭俗稱羅城ト云ノ諸文ニテ羅城ノ義アキラカナリシカハ平安城ノ羅城門ハ京都總グルワノ門ト云コトナリ羅絡義云ヘシ又日本書紀 天武天皇八年十一月難波築羅城云々コノ時分ステラノ名アリトニヘタリ

大内十

- 陽明門 東面
- 待賢門
- 郁芳門
- 美福門 南面
- 朱雀門
- 皇嘉門

二門圖

- 談天門 西面
- 藻壁門
- 殷富門
- 安嘉門 北面
- 偉監門
- 達智門

右十二門大内東四方ノ門ナリ一面ニ各三門アリコノ外ニ又上東上西ノ二門アリ上東門ハ東面陽明門ノ北ニ在リ土御門ト號ス上西門ハ西面殷富門ノ北ニ在リ西土御門ト號ス本ハ西會廂門東會廂門ト號ス偉監門ハ本玄武門ト號ス俗ニ不開門トイフ北門ナリ右何モ拾芥抄ニ詳ナリ

○五代ノ時梁ヨリ後汴京ニ都シテ宋是ニ外城方圓四十餘里城濠ヲ護龍河ト云濶サ十餘丈アリ四方門十五アリソノ内ニ宮闕アリ東華門西華門等二十二門アリ事林廣記ニ詳ナリ元朝燕京ニ廉正門等十一門アリイツレモ事シゲハシルサズ

○明ノ時太祖南京ニ都シタラフ京城周圍九十六里正陽門聚寶門等十三門アリ外城周圍一百八十里十六門アリ成祖ヨリ燕京元ノ舊都ニ移リタラフ周圍四十二里九門アリ

明北京九門圖

廉正門	文明門	順成門	南
齊化門	東直門	東	
平則門	西直門	西	
安定門	德勝門	北	

右ハ北京ノ總ヅルワノ門ナリコノ内ニ皇城アリ大明門承天門端門午門ヲ經テ皇極門ニ至ルソノ内ニ皇極殿アリ左右ニ文昭閣武成閣アリソノ次ニ中極殿建

極殿アリ是ヲ合セテ三、大殿トス、ノ次ニ門ヲ隔テ乾
清宮交、泰殿坤、寧宮アリ、ノ北ヲ玄、武門ト云宮城
ノ北門ナリ、東、西各四門アリ

制度通卷二畢

